

第9回

日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会

The Ehime pref. branch of Japan Society for Health Care Management



プログラム・抄録

日 時 ■ 2018年11月23日（金曜日）9：40～16：40

会 場 ■ 一般財団法人積善会十全総合病院5階大会議室他

〒792-8586 愛媛県新居浜市北新町1番5号

☎ 0897-33-1818

会 長 ■ 中村 寿 一般財団法人積善会十全総合病院 院長

Japan Society for Health Care Management

第9回

日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会

プログラム・抄録



テーマ：

「患者と職員を守れる安心安全な病院づくり

～医療事故0（ゼロ）を目指して～」

日 時 ■ 2018年11月23日（金曜日）9：40～16：40
会 場 ■ 一般財団法人積善会十全総合病院5階大会議室他
〒792-8586 愛媛県新居浜市北新町1番5号
☎0897-33-1818
会 長 ■ 中村 寿 一般財団法人積善会十全総合病院 院長

Japan Society for Health Care Management

「第9回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会」開催にあたって

◆ 学術集会会長あいさつ

第9回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
会 長 中村 寿（一般財団法人積善会 十全総合病院院長）

テーマ： 患者と職員を守る安心安全な病院づくり ～医療事故0（ゼロ）を目指して～

この度、第9回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会を平成30年11月23日（金／勤労感謝の日）に十全総合病院で開催させて頂くこととなりました。

平成22年に日本医療マネジメント学会愛媛県支部が発足し、第1回の愛媛県支部学術集会を当院の古林前院長が主催させていただきました。このときは最初の学術集会でもありましたので、松山総合コミュニティセンターでの開催でした。今回、私が会長を務めさせていただくに当たり、初心に戻って愛媛県支部設立を古林前院長に要請された坂本すが先生を特別講師にお招きし、愛媛県支部設立の準備を進めた当院で開催させていただこうと考えました。

坂本すが先生は皆さんご存じの通り、日本医療マネジメント学会の副理事長で医療安全を担当しておられますし、昨年まで日本看護協会の会長を3期6年お勤めになった看護の分野ではカリスマ的存在です。

今回は坂本すが先生に因んで医療安全をテーマにすることにしました。医療安全というのは非常に幅広い問題を含みますが、我々は日常診療の中での問題収集に医療者側からはインシデントレポートを、患者側からは投書・クレームを利用しています。今回は患者クレームに焦点を当てて考えてみたいと思い、「患者クレーム対応」のシンポジウムを企画しました。坂本すが先生にも「クレーム対応と看護管理」と題して基調講演をいただくことにしております。難しい問題ではありますが、対応を誤ると我々医療者のモチベーション低下にも繋がりがねないクレーム対応を皆さんと考えてみたいと思います。

当院は新居浜市の市街地にあるとはいえ、地方都市ですので公共交通機関の便はあまりよくありませんし、車でも新居浜ICや西条ICから20分ほどかかり、皆さんにご不便をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。特別講師の坂本すが先生とご参会のみなさんとの懇親の機会も設けたいと思っておりますので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

平成30年11月吉日

◆ 日本医療マネジメント学会 愛媛県支部長挨拶

日本医療マネジメント学会 愛媛県支部長 櫃本真幸

ご挨拶 第9回日本医療マネジメント学会愛媛県支部
～地域包括ケア時代をけん引する学会として～

愛媛県支部長 櫃本真幸

本会は、役員及び会員の皆様の積極的・意欲的な活動に支えられて8年目を迎え、会員増と併せて学術報告は質・量とも毎年充実しており、心から感謝申し上げる次第です。

本年行われた医療・介護報酬同時改正はまさに、全ては地域包括ケアシステム実現に向けたプレリユードと言っていいほど、明確な方針が出されました。“医療を生活資源に”を強調してきた私にとって、この改定の基盤には、“生活に戻すため”という生活を重視したマインド（志）がしっかりと位置付けられており、まさに“想定”と評価しています。医療費抑制を全面に打ち出された医療ビジョン（構想）の目的も、地域包括ケアシステムのキーワードである「生活重視」に準じてきたように感じます。地域包括ケアシステム導入の経緯やその真意を知ること、さらに今後の動きを予測することが可能となりました。診療報酬の“後追い”に甘んじず、診療報酬の先取りにチャレンジすることが、地域包括ケア時代を生き抜くための医療経営の条件と言っていいと思います。

さて今年度第9回目の総会は、十全総合病院（中村寿院長）のご尽力のもと開催されます。生活に戻すための医療がますます推進される中、生活に軸足を置いた医療をアイデンティティとする看護師の役割が重要であることから、当病院とこれまで関連の深い元日本看護協会長の坂本すが氏（日本医療マネジメント学会副理事長）の特別講演等が企画されております。住民の生活を重視した地域医療推進に向けて、多機関・多職種が繋がることを心から期待しております。

今後は、疾病管理重視から生活支援強化へと移行し、社会的弱者ケアのためから、むしろ社会的弱者を産み出さないためへ大転換させていくことが重要です。いうまでもなく診断・治療は手段であって入院の目的ではありません。そもそも入院は、これまでの生活を継続するためであり、退院することが前提です。入院の目的を疾病管理ではなく自立生活支援として捉え、患者や家族の意欲を維持・向上しつつ退院後の生活をゴールとする、意識や体制の変革が求められています。患者が元の生活に戻るための入院であることを、医療者が理解すれば、治療内容は各々のQOLを支える真のニーズを把握・共有することが不可欠となります。私がこれまで発信してきた“入院前から退院支援”ですが、今回の診療報酬改定のキーワードになりました。昨今、退院支援・地域連携部門が“入退院センター”として機能強化が図られていますが、入退院を速やかにする役割にとどまらず、病院全体がQOL・QODを重視した生活に戻すことを目標に据えたチーム医療の実践に、ぶれないマネジメント機能を果たしていかなければなりません。

地域包括ケア時代において、ますます当学会の重要性は増しており、責任の重大さを感じております。皆様方のご理解もと、愛媛県はもとより全国に向けて発信できるよう、当学会運営に努めて参りたいと思います。どうかご支援ご協力の程よろしくお願いいたします。

会場案内

◆会場へのアクセス

【お車の場合】

新居浜ICより車で20分

西条ICより車で20分

【公共交通機関の場合】

JR新居浜駅より

瀬戸内バスにて

十全総合病院前下車

(約15分)

アクセス



◆会場駐車場ご案内



一般財団法人 積善会 十全総合病院

〒 792-8586 愛媛県新居浜市北新町1-5

☎ 0897-33-1818

◆会場ご案内

第9回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会では、十全総合病院の下記の施設を使用します。

【救急棟 5階大会議室】

第9回日本医療マネジメント学会
愛媛県支部学術集会
愛媛県支部総会



【リハビリ棟 3階研修室】

一般演題（口演）

【外来棟 3階カンファレンス室】

第9回日本医療マネジメント学会
愛媛県支部役員会



【正面玄関待合ロビー】（玄関棟2階）

参会受付・スライド受付



プログラム

会場 一般財団法人積善会 十全総合病院 5階大会議室、3階研修室
〒792-8586 愛媛県新居浜市北新町1番5号
TEL：0897-33-1818 FAX：0897-37-2124
会期 平成30年11月23日（金曜日・勤労感謝の日） 9：40～16：40
学術集会会長 中村 寿（十全総合病院院長）

患者と職員を守れる安心安全な病院づくり

テーマ ～医療事故0（ゼロ）を目指して～

- 9：00～ 日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員会（3階カンファレンス室）
- 9：00～ 開場・受付・スライド受付開始（正面玄関）
- 9：40～9：45 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会（5階大会議室）
開会挨拶 中村 寿（十全総合病院院長）
- 一般演題Ⅰ（午前）
- 9：50～10：30 一般演題（1）（5階大会議室）
座長：医療法人住友別子病院
看護部長 守屋 昭子
- 一般演題（2）（3階研修室）
座長：社会医療法人同心会西条中央病院
看護部長 田坂 嘉子
- 10：35～11：15 一般演題（3）（5階大会議室）
座長：愛媛大学医学部附属病院
副看護部長 崎田 智美
- 一般演題（4）（3階研修室）
座長：独立行政法人労働者健康安全機構
愛媛労災病院 看護部長 伊藤 千鶴
- 11：20～11：40 日本医療マネジメント学会愛媛県支部総会（5階大会議室）
愛媛県支部長挨拶
檀本 真聿（日本医療マネジメント学会愛媛県支部長）
議事討議（議長：支部長）
進行事務局代表 古林 太加志（十全総合病院名誉院長）
第8回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会優秀演題表彰
- 11：40～12：50 休憩・昼食（70分）

12:50~13:50 特別講演 「クレーム対応と看護管理」 (5階大会議室)
演者 坂本 すが 先生 (日本医療マネジメント学会副理事長、
東京医療保健大学副学長)
座長 中村 寿 (十全総合病院院長)

14:00~15:00 シンポジウム 「患者クレームへの対応」 (5階大会議室)
座長: 中村 寿 (十全総合病院院長)
鎌倉 文子 (十全総合病院看護部長)
コメンテーター: 坂本 すが 先生

一般演題Ⅱ (午後)

15:10~15:50 一般演題 (5) (5階大会議室)
座長: 公立学校共済組合四国中央病院
看護部長 毛利 美鈴
一般演題 (6) (3階研修室)
座長: 一般財団法人積善会十全総合病院
外科部長 太田 和美

15:55~16:35 一般演題 (7) (5階大会議室)
座長: 一般財団法人積善会十全総合病院
副看護部長 藤本 葉子
一般演題 (8) (3階研修室)
座長: 一般財団法人積善会十全総合病院
副看護部長 水田 史子

16:35~16:40 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会 (5階大会議室)
閉会挨拶 中村 寿 (十全総合病院院長)

学術集会参加費: 日本医療マネジメント学会一般正会員 500円
非会員 1000円
日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員 1000円

その他: 当日、日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員会並びに総会をあわせて行います。会員の皆様、是非ともご参加お願いします。なお会員の皆様だけでなく非学会員参加も大歓迎です。

連絡先: 日本医療マネジメント学会愛媛県支部事務局
十全総合病院名誉院長 古林 太加志
〒792-8586 愛媛県新居浜市北新町1番5号
TEL 0897-33-1818 FAX 0897-37-2124
メール takobaya@shikoku.ne.jp

【カテゴリー】

クリティカルパス	1-1 作製・導入、1-2 電子化クリティカルパス、 1-3 アウトカム分析・バリエーション分析、1-4 その他
医療安全	2-1 インシデントレポート・ヒヤリハット報告、 2-2 安全管理、安全対策、2-3 危機管理、2-4 カルテレビュー、 2-5 安全教育・研修、2-6 コンフリクト、2-7 クレーム、 2-8 その他
医療の質	3-1 個人情報保護、3-2 コンプライアンス、3-3 感染対策、 3-4 栄養管理・NST、3-5 褥瘡対策、3-6 チーム医療、 3-7 臨床指標、3-8 口腔ケア、3-9 その他
医療情報	4-1 電子カルテ・IT関連、4-2 診療録管理、4-3 広報活動、 4-4 その他
地域医療連携	5-1 地域連携ネットワークシステム、 5-2 地域連携クリティカルパス、5-3 患者支援・退院支援、 5-4 在宅医療、5-5 救急医療、5-6 リハビリ、5-7 その他
教育	6-1 人材育成、6-2 コーチング、6-3 認定看護師、 6-4 看護教育・教育、6-5 その他
病院運営	7-1 診療報酬、7-2 病歴管理、7-3 物流管理、 7-4 病院マネジメント手法、7-5DPC、7-6 コスト管理、 7-7 組織運営、7-8 モチベーション向上、7-9 その他
患者サービス	8-1CS向上、8-2 患者教育、8-3 その他
看護業務	9-1 看護運営、9-2 看護必要度、9-3 チーム医療、9-4 その他
検診業務	10-1 生活習慣病、10-2 その他
その他	11-1 その他

座長・演者の皆さまへお願い

◆ 座長の皆さまへお願い

受付は9:00より開始いたします。

一般演題座長の方は開会の30分前までに受付をし、次座長席またはその周辺の席にお着きください。

すべての講演と一般演題におけるフロアからの質問につきましては、予め座長より「質問のある方はスタンドマイクの前に立って挙手の上、質問をお願いします。なお質問においてはまず、所属と名前を名乗ってお願いします。」のアナウンスを行い、質疑を開始してください。

なお、日本医療マネジメント学会愛媛県支部では、お互いの呼称を「〇〇先生」とせず、文書では「〇〇様」、呼ぶ時には「〇〇さん」とさせていただきます。特別講演・基調講演・ランチョンセミナーの演者のみ「〇〇先生」と呼びます。

◆ 演者の皆さまへのお願い

(特別講演、一般演題)

演者台上におかれたモニターを見ながら、ご自身でマウス・キーボードを操作して画面を進めてください。

会場で使用するパソコンはWindowsのみです。アプリケーションは、PowerPoint 2003、Powerpoint2007 および Powerpoint2010 です。フォントはMS明朝、MSゴシック、MS P明朝、MS Pゴシックを使用してください。音声は利用できません。動画についても保証できません。

スライドの枚数に制限はありませんが、ご講演時間内に出来るように準備してください。各自で予行をお願いします。ご発表の30分前までに受付でPowerPointデータの確認を済ませ、データを係りの者にお渡しください。USBによるスライドデータが望ましいです。

◆ 一般演題の口演の皆さまにお願い

一般演題は、口演7分、質疑応答2分です。必ず発表時間を厳守してください。質疑応答は座長の指示に従ってください。

◆ シンポジウム演題の口演の皆さまにお願い

一般演題は、口演10分をお願いします。質疑応答は座長の指示に従ってください。

◆ 特別講演は、講演60分の予定です。

第9回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長
中村 寿(十全総合病院 院長)

開会挨拶（9：40～9：45）

【5階大会議室】

第9回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長

中村 寿（一般財団法人積善会十全総合病院 院長）

【5階大会議室】

座長： 守屋 昭子（医療法人住友別子病院 看護部長）

- 演題1 = 安心して地域で暮らすために
—入院前から退院後の生活に向けた支援の質を高める—
田淵典子（たぶち のりこ）、篠原 諭
社会医療法人石川記念会 HITO病院
- 演題2 = PFM ですすめる多職種協働での入院前支援
森実美佐（もりざね みさ）、石見幸子、門田ひとみ、皆川敬樹、福德拓
愛媛生協病院
- 演題3 = 医療介護連携シートの院内周知調査
菊池幸恵（きくち ゆきえ）、清水美智子、清水義貴、橋本妙子
市立八幡浜総合病院
- 演題4 = 円滑な退院調整を行うための包括ケア病棟での取り組み
～包括用情報収集用紙と初期・中間カンファレンス導入の効果～
山崎志真（やまさき しま）
一般財団法人積善会 十全総合病院 地域包括ケア病棟

※1 題発表 7分、 質疑応答 2分、 時間厳守でお願いします。

未来人です。
少し先の未来から来ました。
あなたが想像する未来では
車が空を飛んでいますか。
ロボットがお世話してくれていますか。
ところで医療の未来はどうですか。
オーダーメイドの薬。
手のひらでわかる健康診断。
病気の事前予測。
バイオの力があれば、実現できるかも。
詳しくは未来で。

すべての革新は患者さんのために

バイオでしか、行けない未来がある。

中外製薬
ロシュグループ

創造で、想像を超える。

革新的製品に
思いやりを込めて。

Lilly

日本イーライリリーは製薬会社として、
人々がより長く、より健康で、
充実した生活を実現できるよう、
中枢神経変性疾患、疼痛、がん、
糖尿病、成長障害、筋骨格系疾患、
自己免疫疾患などの領域で、
日本の医療に貢献しています。

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086 神戸市中央区磯上通 5-1-28
www.lilly.co.jp

演題1 = 安心して地域で暮らすために ー入院前から退院後の生活に向けた支援の質を高めるー

演者名 = 田渕 典子 (たぶち のりこ)

所 属 = 社会医療法人石川記念会 HITO病院

共同演者名 = 篠原 諭

演題内容 =

当院は、愛媛県宇摩圏域（人口約9万人）で365日24時間断らない二次救急病院として患者を受け入れている。病棟構成は、急性期ケアミックス型であり、超急性期、急性期、地域包括ケア、回復期、緩和ケア病棟を有している。

地域包括ケアシステムにおいては、入院前から退院後の生活に向け、情報の質と共有が重要な意味をもつ。現在、多職種協働によるケアプロセスの充実を図り、安心して地域で生活することを目指すことを目的に、平成29年度「チーム医療活性化会議」を立ち上げた。今年度は、診療報酬改定に伴い、入院前（時）の患者を対象に退院困難要因を抽出し、退院支援の質を高めるためにカンファレンスの充実および効果・効率的な病床管理について取り組んでいる。今後、退院困難要因を有する患者が、地域の限られた資源を活用し、退院後も安心して生活ができるよう、「多職種による訪問診療」を開始する予定であり、この一連の取り組みについて報告する。

【カテゴリー：3-6 医療の質:チーム医療】

演題2 = PFM ですすめる多職種協働での入院前支援

演者名 = 森実 美佐 (もりざね みさ)

所 属 = 愛媛生協病院

共同演者名 = 石見 幸子、門田 ひとみ、皆川 敬樹、福德 拓

演題内容 = 入院前支援が当たり前になってきている昨今。2018年度の診療報酬改定で「入院前支援加算」が新設された。当院は2017年度の予約入院が29.10%であり、多くは即日入院だ。対象者が限られる事を好機とし、病棟看護師の業務軽減の視点で活動していたPFMプロジェクトが、入院前支援にとりくむ事になった。全入院患者を対象に早期面談を実施するシステムの構築から発展し、予約入院患者に対して入院前にアナムネ聴取と電子カルテへの入力事務で実施。内服薬確認は薬剤師。入院診療計画書の作成を、医師・看護師だけだったものから、PT・管理栄養士も協働作成するものへ変化した。入院前支援は患者にとって、これからはじまる入院生活への期待と不安というストレスを軽減する事につながる。また、入院前から困り事や退院時にこうなっていたい期待を医療者と共有することで、早期退院をめざすきっかけを提示できる。本人も含めたゴールの共有を他職種協働で、を形に変えてきたとりくみを紹介する。

【カテゴリー：3-6 医療の質:チーム医療】

演題3 = 医療介護連携シートの院内周知調査

演者名 = 菊池 幸恵（きくち ゆきえ）

所属 = 市立八幡浜総合病院

共同演者名 = 清水 美智子、清水 義貴、橋本 妙子

演題内容 =

当地域の高齢化率は約37%で、65歳以上の高齢者が入院患者の約7割を占める。そのため、治療後にリハビリや介護を必要とする例が多く、ケアマネとの連携は特に重要である。H28年市内ケアマネ会で担当利用者が入院した際に医療側に送る、入院前のADLや在宅サービス、既往歴・家族歴などの情報を記した「医療介護連携シート」ができ、H29年4月より運用された。より良い連携のために、医療介護連携シートが院内できちんと周知されているのかを確認するため、H30年2月院内でアンケートを実施した。その結果、院内スタッフに周知が不十分という問題がみえてきた。そのため、電子カルテの掲示板利用やメッセージ機能を活用し院内周知を徹底し、再評価を行った。その結果、院内周知はできたが、十分な活用はできていないという新たな問題点が上がった。院内周知の状況、今後の問題点について検討したので報告する。

【カテゴリー：5-3 地域医療連携:患者支援・退院支援】

演題4 = 円滑な退院調整を行うための包括ケア病棟での取り組み ～包括用情報収集用紙と初期・中間カンファレンス導入の効果～

演者名 = 山崎 志真（やまさき しま）

所属 = 一般財団法人積善会 十全総合病院 地域包括ケア病棟

共同演者名 = 飛鷹 佳子、野々下 未紗、松浦 志信、伊藤 千枝

演題内容 =

A病院では入院時から多職種が連携し、退院調整に必要な患者の情報収集を行っているが、在院日数短縮や患者の状態変化から、地域包括ケア病棟転棟時に再度聞き取りを行っている。しかし、情報収集方法や内容の統一はなく、看護師経験年数によりその差は大きく、退院調整を進める中で不足している情報もある。また、包括は期限内（60日）退院であり退院前カンファレンスは定着しているが、チーム内で患者の情報や問題を共有する機会が少なく、受け持ち以外の患者の方向性や課題、問題解決に向けて円滑に進んでいるのかが分かりにくい状況であった。今回、病棟看護師に質問紙を用いて意識調査を行い、転入後退院調整に必要な不足情報を抽出した。その結果をもとに効果的に情報を得るための包括用情報収集用紙を作成し、初期・中間カンファレンスを導入することで、その効果と今後の課題を明らかにした。

【カテゴリー：5-3 地域医療連携:患者支援・退院支援】

【3 階研修室】

座長 : 田坂 嘉子 (社会医療法人同心会西条中央病院 看護部長)

演題 5 = 周術期看護の質向上を目指した術前看護外来での取り組み
～術前看護外来が患者に与える効果～
近藤千春 (こんどう ちはる)
独立行政法人労働者健康安全機構 愛媛労災病院 看護部

演題 6 = 当院におけるインフルエンザワクチン接種率向上への取り組み
宮内雅文 (みやうち まさふみ)
一般財団法人積善会 十全総合病院 医療安全管理室

演題 7 = 内服薬ダブルチェック方法マニュアル化のプロセス検証
伊藤奈津 (いとう なつ)
愛媛県立新居浜病院

演題 8 = 地域のこどもたちへの小児リハビリテーション提供についての取り組み
河端一幸 (かわばた かずゆき)、藤井雅之 伊藤雄規
一般財団法人積善会 十全総合病院 リハビリテーション科

※1 題発表 7 分、 質疑応答 2 分、 時間厳守でお願いします。

Eisai

hvc
Human Health care

患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日々、薬をお届けする日も、見つめています。
病氣とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安、生きることへの希望。
私たちは、医師のように容体からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いによって向き合っていきたいと思えます。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために、
病氣を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ

エーザイはWHO白リンガスフアラリア創製国際運動を支援しています。

まだないくすりを 創るしごと。

世界には、まだ治せない病氣があります。

世界には、まだ治せない病氣とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。

 **astellas**
アステラス製薬株式会社

www.astellas.com/jp/

演題 5 = 周術期看護の質向上を目指した術前看護外来での取り組み ～術前看護外来が患者に与える効果～

演者名 = 近藤 千春 (こんどう ちはる)

所 属 = 独立行政法人労働者健康安全機構 愛媛労災病院 看護部

共同演者名 =

演題内容 =

当院では、2016 年度より整形外科手術患者を対象に術前看護外来を開始し、術前アセスメントの強化や患者の不安軽減を図ると共に患者教育を行い周術期看護の質向上を目的として術前看護外来の体制を確立した。術前看護外来では、麻酔・手術の説明や口腔ケア・禁煙の術前指導を行い、得られた情報はカルテに入力している。患者からは、「知りたい情報が得られた」「病棟看護師も不安な気持ちを知っていた」や「口腔ケアが大事なことを知らなかった」等の反応があった。また、得られた情報を共有することで外来看護師や病棟看護師・医師と連携を図り、入院前から患者の特性を共通認識し、統一した医療を提供している。術前看護外来は、入院前から患者の持つ不安に寄り添い不安の軽減を図っている。また、術前指導により術後の合併症予防を行い手術に臨む患者も増えてきている。以上のことより、今回の取り組みが患者に与える効果について報告する。

【カテゴリー：3-6 医療の質:チーム医療】

演題 6 = 当院におけるインフルエンザワクチン接種率向上への取り組み

演者名 = 宮内 雅文 (みやうち まさふみ)

所 属 = 一般財団法人積善会 十全総合病院 医療安全管理室

共同演者名 =

演題内容 =

インフルエンザはしばしばアウトブレイクを引き起こす流行性疾患で、特に病院施設では患者間・職員間など多様な経路で拡大するため事前の予防策が重要であり、医療従事者においてはワクチン接種による抗体獲得が予防の基本と言われている。

当院におけるインフルエンザワクチン接種は流行シーズン前にワクチン接種を呼びかけ、希望者を対象とした接種が従来の方法であったため接種率は 60%台であったが、2014 年度から全職員対象の健康診断実施日に併せたワクチン接種という形式に変更し、90%台へと増加し接種率向上へ一定効果があった。今回、過去の職員インフルエンザ罹患率、院内での患者発生状況を踏まえて報告させていただく。

【カテゴリー：3-3 医療の質:感染対策】

演題 7 = 内服薬ダブルチェック方法マニュアル化のプロセス検証

演者名 = 伊藤 奈津 (いとう なつ)

所 属 = 愛媛県立新居浜病院

共同演者名 =

演題内容 =

A病棟では、内服カートを使用して配薬患者の内服薬を管理している。内服カートセット後の内服薬を薬剤師が監査した後に発生した内服薬の変更時にはダブルチェックをおこなうようにマニュアル化されている。しかし、ダブルチェック後にも内服リスクが発生しているため、ダブルチェック方法についてマニュアル化しようと考えた。マニュアル提示前には、ほとんどの看護師が患者名・薬剤名・投与方法・投与時間については声出し確認できていたが、パソコンオーダーや指示コメントの確認はできておらず、さらには、mg 数の確認や前回処方や持参薬との比較、指さし呼称ができていなかった。マニュアル提示後にはパソコンオーダーや指示コメントで mg 数や錠数、開始日を指さし呼称にて確認する看護師が増えた。しかし、前回処方との比較はほとんどできていなかった。今後は行動変容を来たすことができなかった項目について修正を検討していく必要があると考える。

【カテゴリー：2-2 医療安全:安全管理、安全対策】

演題 8 = 地域のこどもたちへの小児リハビリテーション提供についての取り組み

演者名 = 河端 一幸 (かわばた かずゆき)

所 属 = 一般財団法人積善会 十全総合病院 リハビリテーション科

共同演者名 = 藤井 雅之 伊藤 雄規

演題内容 =

【はじめに】

近年発達障害（自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障害、学習障害など）をもつ子どもの増加により、平成 17 年 4 月より発達障害者支援法が施行された。当院の小児リハビリテーション（以下小児リハ）でも、地域における小児リハのニーズの高まりにともない、患児の増加がみられた。そこで、地域に寄り添った支援、小児リハを提供するために当院でおこなってきた取り組みをここに報告する。

【結果および考察】

平成 28 年 4 月こどもリハビリテーション室（以下こどもリハ室）を開設し、院内外と連携しながら、発達が未熟な地域の子どもの達へ小児リハができるように、小児リハ部門を増強した。年々新規の患児数は増加しており、より多くの子どもの達へ小児リハを提供することができた。しかし、小児リハの回数を必要とするケースやニーズにたいして、十分な回数を保障することができないという課題もみられた。当日はこれまでの経緯に加え、今後の課題について考察を加える。

【カテゴリー：5-6 地域医療連携:リハビリ】

【5階大会議室】

座長 : 崎田 智美 (愛媛大学医学部附属病院 副看護部長)

演題9 = 入院支援室導入の取り組みとその効果

塩井あい (しおい あい)、矢野勢津美、山中志麻
市立大洲病院 総合患者支援室

演題10 = 骨粗鬆症と地域連携

青木由美 (あおき ゆみ)、仁木千鶴、宇田育美、高橋真理子、近藤恵美子、
井川晃一、高橋直記、越智大輔、間島直彦
社会医療法人石川記念会 HITO病院

演題11 = 地域包括ケア病棟におけるリハビリテーション

～機能改善と在宅復帰に着目して～

田中寛晃 (たなか ひろあき)、伊藤雄規 渡部宥太
一般財団法人積善会 十全総合病院 リハビリテーション科

演題12 = チーム医療における経営管理課の果たす役割

—支援の質保証と診療報酬の加算—

篠原 諭 (しのはら さとし)、田渕典子
社会医療法人石川記念会 HITO病院

※1題発表7分、 質疑応答2分、 時間厳守でお願いします。

演題9 = 入院支援室導入の取り組みとその効果

演者名 = 塩井 あい（しおい あい）

所属 = 市立大洲病院 総合患者支援室

共同演者名 = 矢野 勢津美、山中 志麻

演題内容 =

平成30年度診療報酬改定により、入院前からの患者支援の重要性が提唱された。それに先駆けPFM（入院前からの地域での生活を見据えた一貫した院内他職種協働支援）を導入している病院も多い。現在総合患者支援室では、入院前から切れ目のない支援を目指し、入院支援活動を実施している。当院でも平成29年4月から、患者が安心して入院できる支援体制を整え、外来・病棟看護師の入院に関する業務改善のため、入院支援室を導入した。昨年1年間で入院支援の流れを定着化し、年度末には予定入院に対し100%、予定外入院に対し70%の支援介入が可能となった。今回、入院前から患者・家族支援を行った取り組みとその効果を報告する。

【カテゴリー：5-3 地域医療連携:患者支援・退院支援】

演題10 = 骨粗鬆症と地域連携

演者名 = 青木 由美（あおき ゆみ）

所属 = 社会医療法人石川記念会 HITO病院

共同演者名 = 仁木 千鶴、宇田 育美、高橋 真理子、近藤 恵美子、井川 晃一、
高橋 直記、越智 大輔、間島 直彦

演題内容 =

骨粗鬆症リエゾンサービスは、骨粗鬆症の啓発・予防・診断・治療の為に多職種連携システムである。骨粗鬆症を伴う骨折患者は、複数の施設や部門を経時的に利用することが多い為、リエゾンサービスにより多種多様なスタッフや施設間での情報共有を円滑に行うことが必要となる。四国中央市においては大腿骨近位部骨折患者の二次骨折予防を目的とした取り組みが行われている。

当院の骨粗鬆症チームは、患者の急性期、回復期に至るステージに対応しているが、退院後の治療の継続においては、在宅医療・介護を担う職員との連携が重要になる。骨粗鬆症チームの地域連携を強化する為の取り組みについて紹介する。

【カテゴリー：5-1 地域医療連携:地域連携ネットワークシステム】

演題 11 = 地域包括ケア病棟におけるリハビリテーション ～機能改善と在宅復帰に着目して～

演者名 = 田中 寛晃 (たなか ひろあき)

所属 = 一般財団法人積善会 十全総合病院 リハビリテーション科

共同演者名 = 伊藤 雄規 渡部 宥太

演題内容 =

【はじめに】

地域包括ケア病棟とは、急性期医療を経過した患者及び在宅において療養を行っている患者等の受け入れ並びに患者の在宅復帰支援等を行う機能を有し、地域包括ケアシステムを支える役割を担う病棟と定義されている。決まった期間内に在宅復帰を果たすには、患者の機能維持・改善には積極的なリハビリテーションが必須である。そこで当院におけるこれまでのリハビリテーションの取り組みと経過について検討してみた。

【結果および考察】

当院では 2015 年 9 月から地域包括ケア病棟を開設した。当院におけるリハビリテーションの提供体制や、地域特性などから見た特徴。また ADL の改善度など、約 3 年間の経過を振り返り当日は若干の考察を加え報告する。

【カテゴリー：5-6 地域医療連携:リハビリ】

演題 12 = チーム医療における経営管理課の果たす役割 ー支援の質保証と診療報酬の加算ー

演者名 = 篠原 諭 (しのはら さとし)

所属 = 社会医療法人石川記念会 HITO 病院

共同演者名 = 田淵 典子

演題内容 =

当院の病棟構成は、急性期ケアミックス型であり、超急性期、急性期、地域包括ケア、回復期、緩和ケア病棟を有し、各病棟の機能を活かし患者の健康レベルの向上および患者に寄り添った看取りを目指している。

現在、入院前から退院後の生活の質を高めるために、「チーム医療活性化会議」が設置され、多職種協働によるケアプロセスを中心にした入退院支援・調整に取り組んでいる。今回、平成 30 年度の診療報酬改定において入退院支援加算が新設された。支援の質保証についての理解を深め、加算を得ることを目的に経営企画課がこの会議に参画し協働している。同時に、認知症ケア加算、褥瘡ハイリスク加算についても認定看護師と連携し、丁寧に確実に活動する成果が、診療報酬の加算に反映されることを実感している。

この両方の視点をもつことで、各専門職の果たす役割がより明確になり、自らの実践活動が病院経営に参画しているのだという意識も向上している。経営企画課がチーム医療に参画する必要性とその成果について報告する。

【カテゴリー：7-1 病院運営:診療報酬】

【3 階研修室】

座長 : 伊藤 千鶴 (独立行政法人労働者健康安全機構
愛媛労災病院 看護部長)

演題 13 = 気管支鏡を受ける患者への看護援助の検討
佐藤純子 (さとう じゅんこ)
公立学校共済組合 四国中央病院

演題 14 = 効果的なセンターカンファレンスを行うために -視点表を用いて-
村上朝子 (むらかみ ともこ)
県立新居浜病院 東予救命救急センター

演題 15 = 排便障害チームの立ち上げと経過
真鍋侑記 (まなべ ゆき)、近藤ゆか、松尾健二、元山富美子、村上康太、
堀川康裕、佐々木宏美、加藤美恵、真鍋麻衣子、向井蘭、野間大史、
水田史子、大橋勝久
一般財団法人積善会 十全総合病院

演題 16 = 当院における糖尿病教室の現状と課題
十亀直敬 (そがめ なおたか)、佐伯千春、野呂賢一、井川広美、守谷景子、
若田美満江、塩見晶子、近藤ゆか、増田紘子、佐々木宏美
一般財団法人積善会 十全総合病院

※1 題発表 7分、 質疑応答 2分、 時間厳守でお願いします。

演題 13 = 気管支鏡を受ける患者への看護援助の検討

演者名 = 佐藤純子（さとう じゅんこ）

所 属 = 公立学校共済組合 四国中央病院

共同演者名 = 公立学校共済組合 四国中央病院 埴淵昌毅、

徳島大学大学院医歯薬学研究部 地域医療人材育成分野 増矢幸子、谷洋江

演題内容 =

気管支鏡検査は苦痛を伴う検査であり、患者の不安や看護師への要望を明らかにすることで、今後の看護援助に役立てたいと考えた。検査前には不安の程度やその理由、検査の理解度、検査中の看護師の要望について聞き取り調査をした。対象者 22 名のうち 20 名から回答が得られた。検査前に「不安が非常に大きい」と回答したのは 8 名であった。検査後に「予想以上に大変であった」と回答したのは 6 名であった。看護師への要望としては「そばにいて欲しい」「手を握っていて欲しい」などであった。看護師の検査中の援助に対して 16 名が不安の軽減に効果があったと回答した。検査前の患者の要望を知ることで、個別性のある看護援助が実践できると考えられた。しかし、患者は予想以上の苦痛を感じており支援について更なる検討が必要である。

【カテゴリー：8-3 患者サービス:その他】

演題 14 = 効果的なセンターカンファレンスを行うために -視点表を用いて-

演者名 = 村上朝子（むらかみ ともこ）

所 属 = 県立新居浜病院 東予救命救急センター

共同演者名 =

演題内容 =

A 病院救命センターICU では、平成 27 年度救急診療科が立ち上がり、救急医より多職種カンファレンスの要望があった。救急科の入院患者に対し毎朝 5 分程度センターカンファレンス（以下カンファレンスとする）を実施し始めた。平成 29 年度のカンファレンスの実施件数は 217 件、そのうち看護師の発言は 4 件であった。看護師から情報を積極的に発言することで、よりよいカンファレンスが行えるのではないかと考え、本研究に取り組むことにした。

カンファレンスに対するアンケート調査を実施し、カンファレンスに臨む際、医師へ聞きたいことや、確認したいことが準備できていなかった。また看護師の発言が少なく充実したカンファレンスが行えていなかった。そのため視点表を作成したことで、カンファレンスに対する認識が変化した。看護師からの発言が増えたことで、医師からも意見を求められ、多職種間での話し合いや意見交換ができ、カンファレンスの充実に繋がった。

【カテゴリー：9-3 看護業務:チーム医療】

演題 15 = 排便障害チームの立ち上げと経過

演者名 = 真鍋 侑記 (まなべ ゆき)

所属 = 一般財団法人積善会 十全総合病院

共同演者名 = 近藤 ゆか、松尾 健二、元山富美子、村上 康太、堀川 康裕、佐々木宏美、
加藤 美恵、真鍋 麻衣子、向井 蘭、野間 大史、水田 史子、大橋 勝久

演題内容 =

【目的】排便障害（便秘、便失禁）に対する良質な医療を提供する。

【方法】2017年3月多職種で構成する排便障害チーム「ロダン」を結成した。各々でできる専門的なアプローチ方法を明確にし、まず7月に市民や医療従事者に対し公開講座を開催した。また排便障害外来を開設し、排便障害をもつ外来、入院患者の相談をチームで連携して対応している。

【結果】市民公開講座では約80名の参加者に対し、医師、皮膚排泄ケア認定看護師、管理栄養士、理学療法士から、それぞれの専門に応じた排便障害の治療や対処法について講演し、アンケート調査では満足度90～96%と非常に高い評価をいただいた。

【結語】これらの活動をもとに、地域へ排便障害の認知度を高め、患者により良い医療が提供できるよう努力していきたい。

【カテゴリー：9-3 看護業務:チーム医療】

演題 16 = 当院における糖尿病教室の現状と課題

演者名 = 十亀直敬 (そがめ なおたか)

所属 = 一般財団法人積善会 十全総合病院

共同演者名 = 佐伯 千春、野呂 賢一、井川 広美、守谷 景子、若田 美満江、塩見 晶子、
近藤 ゆか、増田 紘子、佐々木 宏美

演題内容 =

【目的】糖尿病教室では、糖尿病という病気を理解して、食事療法や運動療法や薬物療法など、患者個々が自己管理できるよう、また、糖尿病の悪化を予防する事を目的に行っている。その現状と課題について報告する。

【方法】毎週水曜日の14時から、医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士により、週代わりで開催している。また、歯科衛生士や感染管理認定看護師、災害支援ナースなどの専門家による特別な内容も設けている。いずれも参加費無料、申し込み不要。

【結果】毎回10人前後の参加者がある。外来患者、入院患者、他院に通院中の方などが参加している。

【結論・考察・課題】参加される方は毎回ほとんど同じで、内容も使いまわしのものが多い。入院患者には、病棟スタッフから参加への声かけなどしている。また、内容の偏りや一部のスタッフへの負担が大きくなるように工夫している。参加常連の方に飽きさせない内容の作成、新規参加者獲得が課題である。

【カテゴリー：11-1 その他:その他】

◆愛媛県支部長挨拶

檀本 真聿（日本医療マネジメント学会愛媛県支部長）

◆議事討議

議 長：檀本 真聿（日本医療マネジメント学会愛媛県支部長）
進行事務局代表：古林 太加志（十全総合病院 名誉院長）

◆第8回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会優秀演題表彰

◎最優秀演題賞

演題 17 = 地域の介護施設における感染対策実践への支援の取り組み

演者名 = 新 紀子（あたらし のりこ）

所 属 = 社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院

第8回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長

木戸 保秀（松山リハビリテーション病院 院長）

休憩・昼食（11：40～12：50）

◆演題名『クレーム対応と看護管理』

＜演者＞ 坂本 すが 先生（日本医療マネジメント学会副理事長、
東京医療保健大学副学長）

＜座長＞ 中村 寿（十全総合病院院長）

【特別講演 講師略歴】

坂本 すが 先生



＜出身地＞ 和歌山県

＜学歴＞

1971年3月 和歌山県立高等看護学院 看護学部 卒業

1972年3月 和歌山県立高等看護学院 保健助産学部 卒業

1993年3月 日本看護協会看護研修学校 管理コース 修了

1996年3月 青山学院大学 経営学部経営学科 卒業

2004年3月 埼玉大学大学院 経済科学研究科 博士課程 前期修了

2007年3月 埼玉大学大学院 経済科学研究科 博士課程 後期修了

＜職歴＞

1972年4月 和歌山県立医科大学附属病院（助産婦）

1976年4月 国立王子病院（産婦人科病棟勤務）

1976年10月 関東逓信病院（現NTT東日本関東病院）産婦人科病棟

1989年4月 関東逓信病院 産婦人科病棟 婦長

1992年4月 関東逓信病院 副看護部長

1997年4月 関東逓信病院 看護部長

2003年4月 北里大学大学院看護学研究科 非常勤講師

2005年4月 共立女子短期大学看護学科 非常勤講師

2006年4月 NTT東日本関東病院 シニアアドバイザー

2006年4月 東京医療保健大学看護学科 学科長 教授

2007年4月 東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 教授

2008年4月 東京都看護協会 副会長

2008年6月 社団法人日本看護協会 副会長

2011年6月 公益社団法人日本看護協会 会長

2012年4月 東京医療保健大学副学長



経口FXa阻害剤

薬価標準収載

リクシアナ[®]錠・OD錠
15・30・60mg

一般名：エドキサバントシル酸塩水和物

処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること



※ 効能・効果、用法・用量および警告・禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。



製造販売元（資料請求先）

第一三共株式会社

東京都中央区日本橋本町3-5-1

2017年11月作成

◆ 特別講演 要旨

『クレーム対応と看護管理』

坂本 すが 先生

(日本医療マネジメント学会副理事長、東京医療保健大学副学長)

本講演では、患者さんからの暴力・暴言、とくに悪質なクレームに対して、看護管理者はいかに受け止め、どう対応すべきかということを考えていきたい。

近年、医療・介護施設における暴力・暴言（クレーム）、ハラスメントに関する事件が繰り返し報道されるようになり、管理者の責任が問われる時代になりました。実は報道の多い少ないにかかわらず、以前からある問題ですが、組織として適切な対応が取り決められているという施設は必ずしも多くないようです。たとえば、患者さんからの暴力やクレームは「院内暴力」という括りで、リスクマネジメントの領域と考えられ、医療安全管理室が一手に引き受けざるを得ないという話もしばしば耳にします。

そこで、昨年、本学会の医療安全委員会主催の分科会では「職員の安全をまもる 患者トラブルへの対応」をテーマに取り上げました。実際に、患者暴力・暴言（クレーム）に直面した時を想定した演習なども行いましたが、参加者である看護師の中で“医療者側にも非がある”と考えている人が意外にも多かったことには驚きました。

これに対し、患者暴力の研究者であり、講師を務めていただいた三木明子先生は「まずは職員が患者からの暴力を“暴力”だと認識し、適切な対応をルール化しておく必要がある」と訴えていました。例えば、暴言を受けた場合、受けている職員 1 人に任せっきりにするのではなく「複数で対応する」などをルール化しておくことです。暴力被害を受けるのはスタッフに問題があるからだと考えてしまうのは、組織として暴力に対する教育が不足しているということです。

この分科会や自身の経験もふまえ、看護管理者にとって大事なものは「暴力・暴言から自分のスタッフを守る」という視点ではないかと考えている。そこで、今回は、スタッフが暴力・暴言（クレーム）を受けたときにどうするか、組織としての対応、体制づくりや教育トレーニングの必要性についても話していきたい。

◆『患者クレームへの対応』

<座長> 中村 寿（十全総合病院院長）

鎌倉 文子（十全総合病院看護部長）

<コメンテーター> 坂本 すが 先生

シンポ演題1 = 難病患者・家族のクレーム対応
山崎かおり（やまさき かおり）
独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター

シンポ演題2 = 当院でのクレーム対応の実態 ～3年間のクレーム・相談内容より～
井川広美（いかわ ひろみ）、鈴木里美
一般財団法人積善会 十全総合病院

シンポ演題3 = インシデント後の家族への対応から学ぶ
西田慎太郎（にしだ しんたろう）
愛媛大学医学部附属病院 看護部

シンポ演題4 = 警察OBとの連携による患者クレームへの対応について
石津裕之（いしず ひろゆき）
社会医療法人石川記念会 HITO病院

※1 題発表 10 分、 時間厳守でお願いします。

この手で、
未来を。

感じる 描く 動かす
創る 育てる 届ける
そして 抱きしめる

健康で長生きできる未来を
病とその不安を乗り越える未来を
理想のその先にある未来を

一人ひとりの手で
みんなの手で
希望を信じるこの手で




田辺三菱製薬のシンボルマークは手のひらをモチーフにしています。

www.mt-pharma.co.jp

たった一度の
いのちと
歩く。



KYOWA KIRIN

私たちの志 検索 

シンポ演題1 = 難病患者・家族のクレーム対応

演者名 = 山崎かおり（やまさき かおり）

所 属 = 独立行政法人国立病院機構 愛媛医療センター

共同演者名 =

演題内容 =

当病棟は、神経内科・一般 38 床・PNICU12 床で、主に神経難病のレスパイト入院を受け
る中、平成 28 年度より松山圏域二次救急輪番に参加し一般の救急患者も受けている。看護
師は食事・排泄・ナースコールの設定など細やかな介助が必要な難病患者と救急患者の看護
で、より一層の判断力や技術力、患者との交渉力などが求められる。先日、ナースコールの
不調があったが、すぐに応急処置を取り対応した。しかし翌日、感知式ナースコールを使用
中の患者より「昨夜は鳴りにくかった」とクレームがあった。患者は、その夜目覚める度に
ナースコールの合わせ直しを行い、納得して看護師が傍を離れた後も、またすぐ確認の為の
ナースコールを押すという一晩を過ごされた。ナースコールが鳴らなかった恐怖に対する叫
びであった。今回、難病患者・家族のクレーム対応を振り返り、クレームを未然に防ぎ、安
心して、そしてより早く要望に応えられる対応は何かを考える。

【カテゴリー：2-7 医療安全:クレーム】

シンポ演題2 = 当院でのクレーム対応の実態 ～3 年間のクレーム・相談内容より～

演者名 = 井川 広美（いかわ ひろみ）

所 属 = 一般財団法人積善会 十全総合病院

共同演者名 = 鈴木 里美

演題内容 =

2012 年度の診療報酬改定において、医療従事者と患者の対話を促進、患者等からの疾病
に関する医学的な質問ならびに生活上及び入院上の不安等に関する相談、患者等との良好な
関係を築くため患者サポート体制加算が加えられた。当院でも 2012 年より患者サポート相
談窓口を設置し活動を開始した。

2015 年 10 月にスタートした医療事故調査制度により相談された事故報告のうち、セン
ター調査となった事例の遺族がセンター調査を依頼する理由で最も多かったのは「院内調査
結果に納得できない」であり、説明・同意の必要性を感じた。

当院での実態を把握するために 2015 年 4 月～2018 年 3 月までに受けたクレーム・相
談を集計し内容を分析した所医療に関することが大半で、次に苦情・意見が多かった。苦情の
多くは医療者の対応についてであるが、患者・医療者間の意思疎通に起因しており、親切丁寧
な対応をする事が患者満足度向上に繋がる。「説明不足」の事例に焦点を絞り考察、報告する。

【カテゴリー：2-7 医療安全:クレーム】

シンポ演題3 = インシデント後の家族への対応から学ぶ

演者名 = 西田 慎太郎 (にしだ しんたろう)

所 属 = 愛媛大学医学部附属病院 看護部

共同演者名 =

演題内容 =

入院中の子どもへの抗がん剤投与に関するインシデントが発生した。原因として、ハイリスクな治療にも関わらず、医師、看護師ら医療者間のコミュニケーション不足があったと考えられた。また、インシデントへの対応において、家族から訴えを聞くと、入院後の医療者の対応が不十分であり、子どもや家族には様々な不安や不満を抱かせていたこともわかった。

インシデントの事後対応は、発生の原因究明と対策に焦点が絞られる。しかし、今回の事例を通して、インシデント時の家族の訴えの根底には、入院時から子どもや家族と医療者との関係性が大きく影響していることを再認識した。インシデント発生に至るまでに家族が抱えたストレスが、医療者に対する不安や不満に大きく影響していると感じ、病気を抱える子どもとその家族の気持ちに寄り添った細やかな対応が重要であると考えます。

【カテゴリー：11-1 その他:その他】

シンポ演題4 = 警察OBとの連携による患者クレームへの対応について

演者名 = 石津 裕之 (いしず ひろゆき)

所 属 = 社会医療法人石川記念会 HITO病院

共同演者名 =

演題内容 =

【背景】開設以来患者からのクレーム対応については、受付窓口を担当している医事課スタッフが昼夜問わず対応していましたが、平成24年7月より警察OBの職員採用を行い患者相談課へ配属、患者からのクレームについては患者相談課配属の警察OBと医事課スタッフが連携し対応している。

【方法】新病院となった平成25年4月より平成30年3月までの5年間における、患者からのクレーム件数や内容を分析することにより当院の患者対応の流れや対策方法を説明する。

【結果】患者相談課へ警察OBを配置した平成24年7月以降、クレーム件数は毎年減少傾向ではあるが、クレーム内容によっては複雑化し患者相談課だけでは対応できない状況が増えている。

【結語】患者クレームを主に対応している患者相談課については、患者相談全体の窓口であるサポートセンターとの連携を強固なものとし、今後は医療安全管理委員会との連携も行い患者からのクレームを未然に防ぐ。

【カテゴリー：2-7 医療安全:クレーム】

【5階大会議室】

座長 : 毛利 美鈴 (公立学校共済組合四国中央病院 看護部長)

演題 17 = 当院の「ご意見箱」の分析

井上より子 (いのうえ よりこ)、柚木 茂
一般財団法人永頼会 松山市民病院

演題 18 = 指差呼称定着への取り組みの効果～6Rの唱和をタッチ&コールで実施して～

浅木智子 (あさぎ ともこ)、秋月 渚
独立行政法人労働者健康安全機構 愛媛労災病院

演題 19 = 医療安全委員会の活動報告

小原睦美 (おはら むつみ)、竹田喜久恵
医療法人社団樹人会 北条病院 医療安全管理室

演題 20 = 転倒予防ラウンドの取り組みと今後の課題

高岡 恵 (たかおか めぐみ)、酒井由紀子 東方智香
一般財団法人永頼会 松山市民病院

※1題発表7分、 質疑応答2分、 時間厳守でお願いします。

製薬会社は、
幸せな未来を
描いているだろうか？

MSDは、医薬品やワクチンの提供を通じて、日本の、そして世界の医療ニーズにお応えしています。そこで思い描いているのは、皆さまのすこやかな未来。薬の力を未来の力につなげるために、これからもMSDは、時代を切りひらく革新性と科学への揺るぎない信念で、画期的な新薬やワクチンの開発に取り組んでいきます。

新薬で、未来をひらく。

MSD

MSD株式会社 東京都千代田区九段北一丁目13番12号 北の丸スクエア www.msd.co.jp

選択的DPP-4阻害剤—2型糖尿病治療剤— 薬価基準収載

スイニー[®]錠 100mg
SUINY 100 (アナグリプチン錠)

● 処方箋医薬品・注意—医師等の処方箋により使用すること

製薬開発元
株式会社 三和化学研究所
名古屋市東区東片瀬町2番地 760-8621
● ホームページ <http://www.skk-rak.com/>

資料請求先・問い合わせ先
コンタクトセンター
☎ 0120-19-8130
受付時間 月—金 9:00—17:00(土日祝日除く)

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等は添付文書をご参照ください。

2015年12月作成
(OL-7)

演題 17 = 当院の「ご意見箱」の分析

演者名 = 井上 より子 (いのうえ よりこ)

所 属 = 一般財団法人永頼会 松山市民病院

共同演者名 = 柚木 茂

演題内容 =

【はじめに】「クレームを言わない客は何も言わずに去っていく」という有名なフレーズが示すとおり、クレームがないからと言って顧客が満足しているとは限らない。安全で良質な医療提供には、病院に対する顧客の要望や意見等の情報が必要不可欠である。そこで、当院の「意見箱」の投書内容を分析し、医療サービスの向上に繋がりたいと考え、報告する。

【方法】2015年から2017年の当院に設置している「意見箱」に投函された投書とその内容を分析

【結果】投書件数は、2015年149件、2016年74件、2017年64件で最も多かったのは、院内設備・環境に関する内容、次いで職員の接遇に関する内容であった。ドナベディアン3要素を参考にして医療の質の面で見ると、「構造」「過程」が多く「結果」が少なかった。

【考察】結果より「環境点検・意見箱リフォーム・院内接遇インストラクター」養成を行なった。継続して評価をする事で医療の質向上、患者満足度の向上に繋がると考えられた。

【カテゴリー：8-1 患者サービス:CS 向上】

演題 18 = 指差呼称定着への取り組みの効果～6Rの唱和をタッチ&コールで実施して～

演者名 = 浅木 智子 (あさぎ ともこ)

所属 = 独立行政法人労働者健康安全機構 愛媛労災病院

共同演者名 = 秋月 渚

演題内容 =

一般的に確認動作で指差呼称を行うと、ヒューマンエラーによるインシデント発生が6分の1に減少すると言われている。A病院では、平成28年度から薬剤を確認する動作の方法を見直し、指差呼称が行えるようKYT(危険予知トレーニング)を実施した。指差呼称の実施率は、平均で70.4%から93.2%に上がったが、その後調査でわずかな低下がみられた。

指差呼称での確認動作が定着するように、平成29年11月より、全部署で毎朝の始業時に、タッチ&コールでポスターを指差呼称しながら6Rを唱和した。結果、平成29年12月の薬剤確認動作KYTの実施率は、「指差」は95.1%から98.9%に、「呼称」は91.4%から100%と改善がみられた。

【カテゴリー：2-2 医療安全:安全管理、安全対策】

演題 19 = 医療安全委員会の活動報告

演者名 = 小原 睦美（おはら むつみ）

所 属 = 医療法人社団樹人会 北条病院 医療安全管理室

共同演者名 = 竹田 喜久恵

演題内容 =

当院は平成 12 年度から MRM 委員会、平成 14 年度から医療安全管理委員会として活動をしている。今回、平成 22 年度から現在までのアクシデント・インシデントレポート（以下レポート）の報告数の推移と取り組みについて振り返った。平成 23 年・24 年度レポート報告総数は、243 件・234 件と当院の適正報告数 300 件を下回る状況であった。そこで、平成 25 年度は医療安全実行委員会の活動内容を見直し、現場から発信した課題についてグループに分け活動した。これは、三現主義「現場・現実・現物」に基づき、足元を見つめることから、問題を自分の事として考えてもらおうと考えたからである。レポート報告総数は 464 件と目標を上回ることができた。現在もグループ活動を継続しているが、ここ 3 年間レポート報告数の減少がみられている。手段の目的化、マンネリ化が影響しているのではないかと考える。今回、当院の医療安全に関する取り組みを報告し、今後の活動の課題を明らかにする。

【カテゴリー：2-2 医療安全:安全管理、安全対策】

演題 20 = 転倒予防ラウンドの取り組みと今後の課題

演者名 = 高岡 恵（たかおか めぐみ）

所 属 = 一般財団法人永頼会 松山市民病院

共同演者名 = 酒井 由紀子 東方 智香

演題内容 =

社会の急速な高齢化に伴い、病院、施設での転倒件数は増加傾向にある。当院では転倒予防対策チームの活動として他職種が組織横断的に関わってきた。急性期病院において転倒は医療安全の観点からも重大事例につながる可能性がある。病院組織として予防的視点を持ち、入院生活における環境調整と早期の転倒予防対策が必要であると考えた。A 病棟では、病棟看護師がリハビリスタッフと共に転倒予防対策の一環として、入院 3 日以内にウォーキングカンファレンスを転倒危険度高リスクの患者対象に実施した。その結果、患者の転倒予防対策に有効であると考えられ、全病棟でウォーキングカンファレンスを開始した。院内においても医療安全活動として転倒予防ラウンドを実施している。この取り組みは患者の入院生活の安全を確保するとともに医療スタッフの転倒予防対策に向けた意識付けにつながっていると考え。当院での取り組みと今後の課題を述べる。

【カテゴリー：2-2 医療安全:安全管理、安全対策】

【3 階研修室】

座長 : 太田 和美 (一般財団法人積善会十全総合病院 外科部長)

演題 21 = 乳癌化学療法クリティカルパス改善に向けたレジメン別バリエーション分析
青儀健二郎 (あおぎ けんじろう)、宮内一恵
独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター

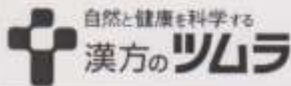
演題 22 = 膀胱留置カテーテル抜去後、下部尿路機能障害の持続する患者の特徴
宮脇拓海 (みやわき たくみ)
社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院

演題 23 = 超緊急帝王切開 (GradeA) 連絡体制の再構築からの改善
飯尾美知子 (いいお みちこ)
愛媛大学医学部附属病院 1号館5階病棟

演題 24 = 当院のリンパ浮腫ケアに関するアンケート調査から見た現状と今後の課題
前田彩乃 (まえだ あやの)、田窪良次、岡田真由美、中平朱美、
中越ゆう子、大塚 環、池川美和、東 良子、柏 美栄子
社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院

※1 題発表 7 分、 質疑応答 2 分、 時間厳守でお願いします。

漢方医学と西洋医学の融合により 世界で類のない最高の医療提供に貢献します



自然と健康を科学する

漢方のツムラ

<http://www.tsumura.co.jp/>

●お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970 【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930



Better Health, Brighter Future

タケダから、世界中の人々へ。
より健やかで輝かしい明日を。

一人でも多くの人に、かけがえのない人生をより健やかに
過ごしてほしい。タケダは、そんな想いのもと、1783年の
創業以来、数多くの医薬品の創出を通じて社会とともに
歩み続けてきました。

私たちは今、世界のさまざまな国や地域で、予防から
治療・お薬にわたる多様な医療ニーズと向き合っています。
その一つひとつに添えていくことが、私たちの新たな使命。
よりよい医薬品を待ち望んでいる人々に、少しでも早く
お届けする。それが、いつまでも変わらない私たちの信念。
世界中の愛知を集めて、タケダはこれからも全力で、世界の
未来を切り拓いていきます。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



演題 21 = 乳癌化学療法クリティカルパス改善に向けたレジメン別バリエーション分析

演者名 = 青儀 健二郎（あおぎ けんじろう）

所属 = 独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター

共同演者名 = 宮内 一恵

演題内容 =

乳癌化学療法クリティカルパス（以下パス）のバリエーション分析を行い診療上の問題点を検討した。2017年4月1日～7月27日までの当院乳腺科における入院化学療法パスを用いた初回補助化施行症例（TC療法10例、ドセタキセル療法8例、FEC/EC療法7例、Weeklyパクリタキセル（w-PTL）療法8例、Dose-denseパクリタキセル（dd-PTL）療法7例）計40例を対象とした。バリエーション分析項目の注射では投与当日のバリエーションがdd-PTL療法88.8%、FEC/EC療法75.2%、ドセタキセル療法75.4%と多いがw-PTL療法は62.9%と少なく、投与7日目ではTC療法が19.5%と多かった。投薬では投与当日はFEC/EC療法が37.7%、投与7日目ではTC療法が15.2%と多かった。レジメン別バリエーション分析は、化学療法パス改善のための重要なデータになると思われた。

【カテゴリー：1-3 クリティカルパス:アウトカム分析・バリエーション分析】

演題 22 = 膀胱留置カテーテル抜去後、下部尿路機能障害の持続する患者の特徴

演者名 = 宮脇 拓海（みやわき たくみ）

所属 = 社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院

共同演者名 =

演題内容 =

排尿困難や尿閉、水分出納量の管理、創部汚染予防のために膀胱留置カテーテルが用いられることがある。長期間の留置はカテーテル関連尿路感染や膀胱の廃用性萎縮などを引き起こす要因となることがあり、早期に膀胱留置カテーテルを抜去することが望まれる。

当院では平成29年5月より排尿ケア委員会が設立され、膀胱留置カテーテルが挿入中の患者に対する抜去検討や、抜去後の経過に応じた泌尿器科の介入・リハビリテーションの励行といったフォローを行い、尿閉や失禁などの下部尿路機能障害の出現に対する対応策の検討・実施をしてきた。そこで、当院の排尿ケア委員会がスクリーニングを行った症例や介入事由について明らかにしたいと考えた。

【カテゴリー：3-9 医療の質:その他】

演題 23 = 超緊急帝王切開（GradeA）連絡体制の再構築からの改善

演者名 = 飯尾 美知子（いいお みちこ）

所属 = 愛媛大学医学部附属病院 1号館5階病棟

共同演者名 = なし

演題内容 =

A 病院は地域周産母子センターとして、ハイリスク妊産婦の受け入れを行っている。平成 29 年度の分娩件数は 346 件であり、そのうち 155 件は帝王切開術である。帝王切開術には、予定、緊急にかかわらず産婦人科医をはじめとする関連部署の医師・看護職が結集し対応する。なかでも、超緊急帝王切開（以下 GradeA とする）は可及的速やかに児を娩出しなければ、母児特に児の命に危険が及ぶ可能性がある状態であり、年間に数件みられる。今回 GradeA の対象となった妊婦の経過の中で、既存の連絡体制で一部連絡が途絶え、手術開始が遅れるという経験をした。このことから、再発防止に向け、部門を超えて医師、看護職が GradeA の連絡体制について検討し、再構築を行った。その後、GradeA で手術開始が遅れることはなく関連部署とスムーズに連携でき、改善につながったため報告する。

【カテゴリー：2-2 医療安全:安全管理、安全対策】

演題 24 = 当院のリンパ浮腫ケアに関するアンケート調査から見えた現状と今後の課題

演者名 = 前田 彩乃（まえだ あやの）

所属 = 社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院

共同演者名 = 田窪 良次、岡田 真由美、中平 朱美、中越 ゆう子、大塚 環、
池川 美和、東 良子、柏 美栄子

演題内容 =

【背景】リンパ浮腫は発症すると治癒困難で継続的なケアが必要である。昨年リンパ浮腫セラピストを取得したが、一人での継続的なケアは困難であった。病棟スタッフと連携してケアを行う必要性があると感じた。

【目的】病棟スタッフのリンパ浮腫に関する現在の知識を把握し、今後の課題を明らかにする。

【方法】対象：ケアに関わる病棟スタッフ 40 名。調査票を用いて調査し、結果内容を質的に分析した。

【結果】リンパ浮腫ケアの「リンパドレナージ」24%、「圧迫療法」26%、「運動療法」15%、「日常生活のケア」51%が「知っている」と回答した。ケアに関する知識が不足していることが明らかとなった。

【考察】セラピストと病棟スタッフが分担・協働しケアを行うために、リンパ浮腫の予防・早期発見、ケアの専門知識・技術に関する勉強会を実施する必要がある。また、安全で効果的なケアが提供できる、看護手順、情報伝達システムを整える必要があると考える。

【カテゴリー：3-6 医療の質:チーム医療】

【5階大会議室】

座長： 藤本 葉子（一般財団法人積善会十全総合病院 副看護部長）

演題 25 = 術中褥瘡発生に対する対策と効果

高橋健一（たかはし けんいち）、井上真由美、脇 光葉
公立学校共済組合 四国中央病院

演題 26 = 当院手術室における臨床工学技士が担う役割

廣田聖二（ひろた せいじ）、佐光美穂 赤松沙織 安藤仁美 吉岡淳志
一般財団法人積善会 十全総合病院

演題 27 = 手術室における抗がん剤曝露対策の現状と取り組み

井上信彦（いのうえ のぶひこ）、大塚 環、田村恵梨奈、東 良子、
柏 美恵子、東 浩司
社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院

演題 28 = 当院手術センターの移乗時の留置カテーテル自己抜去に対する取り組み

谷田恭祐（たにだ きょうすけ）、小松 忠 井上より子 柚木 茂
一般財団法人永頼会 松山市民病院

※1題発表7分、 質疑応答2分、 時間厳守でお願いします。



EAファーマは消化器の
スペシャリティ・ファーマです
薬価基準取載

新発売
胆汁酸トランスポーター阻害剤
ゲーフィス錠 5mg
GOOFICE® (L-ロピキシリン水和物製剤)

処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること
プロトンポンプ阻害剤
パリエット錠 5mg, 10mg, 20mg
(ラベプラゾールナトリウム製剤) www.pariet.jp

処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること
本剤は治療に付いては患者の肝臓を保護し、L-1は本剤の肝臓保護効果は肝臓以外の
肝臓に作用しないこと。また、肝臓保護のため、肝臓に作用すること。

ヘリコバクター・ピロリ除菌治療剤
ラベキユアパック 400・800
(L-ベゾプラゾールナトリウム塩、アモキシシリン水和物製剤、日本薬局方クラリスロマイシン錠)

処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること
本剤は治療に付いては患者の肝臓を保護し、L-1は本剤の肝臓保護効果は肝臓以外の
肝臓に作用しないこと。また、肝臓保護のため、肝臓に作用すること。

ヘリコバクター・ピロリ除菌治療剤
ラベファインパック
(L-ベゾプラゾールナトリウム塩、アモキシシリン水和物製剤、日本薬局方クラリスロマイシン錠)

胃炎・胃潰瘍治療剤
日本薬局方 アプレナンカプセル
セルベックス® カプセル 50mg
セルベックス® 細粒 10%
(アプレナン製剤)

胃炎・潰瘍治療剤
マースレンS配合顆粒
マースレン® 配合錠 0.375ES
マースレン® 配合錠 0.5ES
マースレン® 配合錠 1.0ES
(アスレンスルホン酸ナトリウム水和物・シゲルタミン製剤)

新発売
消化器疾患、肝臓・胆道疾患の処方箋により使用すること
高濃度大腸菌治療剤
レクタブル2mg 注腸フォーム14回
RECTABUL® 2mg (17-β-エストラジオール)

成分栄養剤
エレントール® 配合内用剤
ELENTOAL®
生物学的活性 動物 処方箋医薬品
ヒト型抗ヒト-TNFαモノクローナル抗体製剤

ヒュミラ® 皮下注 40mg シリンジ 0.4mL
皮下注 80mg シリンジ 0.8mL
HUMIRA®
ヒト型抗ヒト-TNFαモノクローナル抗体製剤

分枝鎖アミノ酸製剤
日本薬局方
イソロイシン・ロイシン・バリン顆粒
リーバクト® 配合顆粒
LIVACT®
分枝鎖アミノ酸製剤
リーバクト® 配合錠 **ゼリー**
LIVACT® JELLY

処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること
肝臓疾患用剤・アレルギー用薬
強力ネオミ/アールゲ/ゾー P静注 20mL
強力ネオミ/アールゲ/ゾー 静注 20mL
強力ネオミ/アールゲ/ゾー 静注 5mL
強力ネオミ/アールゲ/ゾー 静注シリンジ 20mL
強力ネオミ/アールゲ/ゾー 静注シリンジ 40mL

肝臓疾患用剤・アレルギー用薬
グリチロン® 配合錠
GLYCYRON® Tablets
(グリチルリチン酸一ゲンシウム・ゲリシリン-DL-アラビノシド配合錠)


処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること

経口腸管洗浄剤
モビプレップ® 配合内用剤
MOVIPREP®

処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること
グルカゴン(遺伝子組換え)製剤

グルカゴンGノボ® 注射用 1mg
Glucagon G Novo 1mg

● 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌・
原則禁忌を含む使用上の注意等
については添付文書をご参照ください。

 EAファーマ株式会社
東京都中央区入船二丁目1番1号

文献請求先：
EAファーマ株式会社 くすり相談
〒104-0042 東京都中央区入船二丁目1番1号
☎ 0120-917-719

2018年4月作成
ALL-D04G-B52-AT

第10回

日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会

開催日：未定

開催場所：愛媛生協病院

学術集会会長：愛媛生協病院院長 今村 高暢

演題 25 = 術中褥瘡発生に対する対策と効果

演者名 = 高橋 健一（たかはし けんいち）

所属 = 公立学校共済組合 四国中央病院

共同演者名 = 井上 真由美、脇 光葉

演題内容 =

【はじめに】当院の年間手術件数は約 1200 件で、全身麻酔の手術は約 400 件である。平成 28 年度の術中褥瘡発生数は 11 件で、整形外科手術時に発生していた。そこで、手術室看護師と皮膚・排泄ケア認定看護師が協働し、取り組んだ結果を報告する。

【活動内容】まず、体位固定具の除圧方法の確認とウレタンフォームマットレスの劣化状況を調査した。また、保湿剤や高すべり性スキンケアパッドを採用し、剥離剤の使用を徹底した。それに加え術中褥瘡予測スコア法（以下 OPDS）を使用し、勉強会も行った。

【結果】摩擦・ずれに対し広い面積で圧分散を行うこと、予防的に保湿剤とドレッシング材を使用すること、また OPDS によるリスクアセスメントによってドレッシング材の選択と貼付部位の標準化が図れた。これらの介入により、平成 29 年度の術中褥瘡発生数 4 件、今年度 8 月現在 0 件である。

【まとめ】手術室看護師と現状分析し改善策を行うことで、褥瘡発生数の減少につながった。

【カテゴリー：3-5 医療の質:褥瘡対策】

演題 26 = 当院手術室における臨床工学技士が担う役割

演者名 = 廣田 聖二（ひろた せいじ）

所属 = 一般財団法人積善会 十全総合病院

共同演者名 = 佐光 美穂 赤松 沙織 安藤 仁美 吉岡 淳志

演題内容 =

【はじめに】当院では医療機器の高度化に伴い 2009 年度より医療機器の保守点検と手術室業務を主目的として臨床工学技士が常駐となった。現在、医療機器の保守点検を行いつつ手術室看護師と共に手術介助業務を行い看護師の業務負担軽減に取り組んでいる事を報告する。

【目的】手術室に臨床工学技士が導入となり 10 年が経過したため現状の整理とこれからの課題を明確にする。

【現状】手術室スタッフは看護師 10 名・臨床工学技士 3 名で構成されており当院では年間約 1000 件の手術を行っている。

【結果】手術室業務を行う上で看護師との職種の違いから業務内容に制限があり、臨床工学技士が手術室での業務に必要なかどうか葛藤があった。

【まとめ】円滑な手術室業務を行うには看護師と協働体制をとり、より良いチーム作りをすることが大切である。

【カテゴリー：3-6 医療の質:チーム医療】

演題 27 = 手術室における抗がん剤曝露対策の現状と取り組み

演者名 = 井上 信彦 (いのうえ のぶひこ)

所 属 = 社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院

共同演者名 = 大塚 環、田村 恵梨奈、東 良子、柏 美恵子、東 浩司

演題内容 =

【背景】手術室では、筋層非浸潤性膀胱がんに対し、TUR-Bt後の抗がん剤即時単回注入を実施している。手術室での抗がん剤の取り扱い、調製・投与・廃棄等において曝露の危険性が高い。今年からCSTD(抗がん剤曝露対策閉鎖システム)を導入したが、スタッフが必要性を十分に理解できていなかった。

【目的】スタッフの抗がん剤曝露の認識を把握し、適切な曝露対策が行える。

【方法】抗がん剤曝露について勉強会を実施する。前後で質問紙法調査を行い、理解度を確認する。

【結果】抗がん剤の危険性、曝露防止に関する項目で知識が不足していた。勉強会を行うことで、全員が曝露について理解できた。

【考察】抗がん剤の安全な取り扱い対策(優先度レベル1~4)で、CSTD(レベル2)、PPE(レベル4)の対策はとれていたが、曝露教育(レベル3)が不十分であった。勉強会による教育を行ったことで正しい知識・技術が定着し、効果的な曝露対策に繋がると考える。

【カテゴリー：11-1 その他:その他】

演題 28 = 当院手術センターの移乗時の留置カテーテル自己抜去に対する取り組み

演者名 = 谷田 恭祐 (たにだ きょうすけ)

所 属 = 一般財団法人永頼会 松山市民病院

共同演者名 = 小松 忠 井上 より子 柚木 茂

演題内容 =

【はじめに】手術を受ける患者は、多数の生命維持に欠かせないカテーテル・チューブに繋がれている。当院手術センターのチューブ抜去関連インシデントは、2017年4月~2018年8月まで5件発生した。その中でもベッド移乗時の尿管留置カテーテル抜去は重大なインシデントと捉え、対策を分析し実践した結果を報告する。

【方法】4M4Eマトリックス分析シートを使用し、ベッド移乗時の尿管留置カテーテル抜去事例から手術室看護師でカンファレンスを重ね時系列経過と発生要因、対応策の検討を行った。

【結果】腹臥位症例時にはバルンを大腿内側にテープ固定した。指先呼称、声出し確認を全員で周知徹底するため、7つの注意点を明記したチェックボードを作成し、移乗するベッドに置くようにした。アンケートにより中間評価を行い、評価修正を行った。

【考察】移乗時の事故抜去に関するインシデントは、視覚的なチェックボードの使用で意識改善することで減少に繋がる。

【カテゴリー：2-1 医療安全:インシデントレポート・ヒヤリハット報告】

【3 階研修室】

座長 : 水田 史子 (一般財団法人積善会十全総合病院 副看護部長)

演題 29 = 院内急変の予兆を知るための指標の活用

加藤あゆみ (かとう あゆみ)

愛媛県立新居浜病院 東予救命救急センター

演題 30 = A 病棟における教育体制の構築—少人数の指導者の効果的な活用—

大崎純子 (おおさき じゅんこ)、魚見和江、大久保三代子

愛媛大学医学部附属病院

演題 31 = 看護基礎教育における地域包括ケアの実際を学ぶ臨地実習への転換を目指した
試み

和田智恵子 (わだ ちえこ)、高橋美由紀、鈴木和恵、伊藤純子、毛利智恵美

一般財団法人積善会 十全看護専門学校

※1 題発表 7 分、 質疑応答 2 分、 時間厳守でお願いします。

演題 29 = 院内急変の予兆を知るための指標の活用

演者名 = 加藤 あゆみ (かとう あゆみ)

所 属 = 愛媛県立新居浜病院 東予救命救急センター

共同演者名 =

演題内容 =

近年、RRS を導入する施設が増えており、当院でも導入を検討していかなければならない。そこで、平成 28 年度、21 件あった院内急変の経過を早期警告スコアに沿って調査した。看護師が統一した観察を行い、急変の予兆に気づけるよう本研究に取り組んだ。

経過を調査したところ、呼吸不全の患者が多いことが分かった。しかし、呼吸回数の測定が少ない為、正確な点数化ができなかった。その為、SpO₂ を呼吸回数に代用した仮スコアを作成し点数化すると、点数が上昇していた。呼吸に関する観察が急変の予兆に深く関わっており、呼吸回数を記録に残しておく必要がある。呼吸回数の増加に気づき、スコアで点数化すると、早い段階で点数の上昇がみられ、急変の予兆と捉え対応できるのではないかと考える。

統一した観察を行い点数化することで、簡便化かつ早期に予兆に気づき急変を防げるよう A 病院独自の気づきを基準化した指標を作成していくことが今後の課題である。

【カテゴリー：6-4 教育:看護教育・教育】

演題 30 = A 病棟における教育体制の構築—少人数の指導者の効果的な活用—

演者名 = 大崎 純子 (おおさき じゅんこ)

所 属 = 愛媛大学医学部附属病院

共同演者名 = 魚見 和江、大久保 三代子

演題内容 =

A 病棟は整形外科病棟であり、平成 28 年度の手術件数 725 件、平均在院日数 16.7 日、重症度、医療・看護必要度は手術日で 40%以上となり平均 29.4%と繁忙であった。平成 29 年度のスタッフ構成は新人～3 年目の指導が必要な看護師が 15 名、自立して業務を遂行できる看護師は 7 名、指導が行える看護師は 4 名であり、指導者が少ない状況であった。そこで、少人数の指導者が効果的に指導を行うために、日勤における教育担当者を 1 名明確に示し、患者を受け持たず指導に専念する体制とした。その結果、日勤看護師 1 名あたりの担当患者数は多くなったが、指導を受けられる安心感があるという意見が多く聞かれた。また、転倒転落やルートトラブルのインシデントが減少した。

A 病棟ではメリット・デメリットを考慮しても、教育担当者をおくことは効果があると考えられる。看護の質を保つためには、この教育体制は必要であり、平成 30 年度もこの体制を継続している。

【カテゴリー：6-4 教育:看護教育・教育】

演題 31 = 看護基礎教育における地域包括ケアの実際を学ぶ臨地実習への転換を目指した
試み

演者名 = 和田 智恵子 (わだ ちえこ)

所 属 = 一般財団法人積善会 十全看護専門学校

共同演者名 = 高橋 美由紀、鈴木 和恵、伊藤 純子、毛利 智恵美

演題内容 =

今、日本の社会では、団塊の世代が後期高齢者になる 2025 年を目前に、その後の少子、超高齢多死社会への対応のため、医療提供体制の転換、地域包括ケアシステムの構築にむけたシステム整備が急ピッチで進んでいる。

本年 4 月、そうした社会の変化に対応できる看護師の育成のため、厚生労働省に「看護基礎教育検討会」が発足。2022 年 4 月の導入を目標に看護師養成所指定規則改正に向けた動きが始まった。本校では、看護実践力と共に、社会人基礎力の育成が必要と言われる現代の若者の学びを支えつつ、従来の実習を見直し、納棺師を招いて在宅の看取りを学ぶ「看取りの看護」の企画。医療福祉相談支援センター実習の導入。病院との連携により、退院支援に関わる多職種によるシンポジウムの企画や、退院カンファレンスの場面の教材化等、地域包括ケアの実際を学ぶ実習への転換を目指した試みを重ねてきた。これまでの取り組みと課題を報告する。

【カテゴリー：6-4 教育:看護教育・教育】

閉会の挨拶（16：35～16：40）

【5階大会議室】

第9回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会会長

中村 寿（十全総合病院 院長）

第9回 日本医療マネジメント学会愛媛県支部 総会資料

日本医療マネジメント学会愛媛県支部 会則

(名称)

第1条 本支部は日本医療マネジメント学会愛媛県支部と称する。

第2条 本支部の事務局は財団法人積善会十全総合病院に置く。事務局は会計を兼任する。

(目的)

第3条 本支部は日本医療マネジメント学会の地方支部として、医療マネジメントに関する学術、研究の交流をはかり、医療の進歩に資することを目的とする。

(事業)

第4条 本支部は前条の目的を達成するために学術集会、研究発表会ならびに講演会の開催を行う。

(会員の資格)

第5条 本支部は、愛媛県に在住する日本医療マネジメント学会会員を以て構成する。

(学術集会)

第6条 本支部は年1回以上学術集会を開催する。学術集会のうち主たるものを支部学術集会と呼ぶ。

第7条 支部学術集会の演者は招待講演者を除き、必ず、日本医療マネジメント学会の会員であることとする。

(入会・退会の手続き)

第8条 本支部への入会は日本医療マネジメント学会本部に入会手続きを行うことにより行う。日本医療マネジメント学会本部を退会した場合には、本支部を退会したものとす。

(役員)

第9条 本支部に次の役員を置く。

支部長	1名
副支部長	1名
幹事	若干名
監事	2名
学術集会会長	1名
次期学術集会会長	1名

(役員任期)

第10条 役員任期は2年とする。ただし再任は妨げない。役員に欠員を生じた場合、支部長が愛媛県在住の日本医療マネジメント学会会員の中より補欠の役員を選任する。補欠の役員任期は前任者の残任期間とする。

(役員委任、選出)

第11条 支部長は幹事の互選により役員会で選出し、総会で決定する。

第12条 副支部長および監事は支部長が幹事の中から指名する。

- 第 13 条 支部長は愛媛県在住の日本医療マネジメント学会会員の中から、役員会の議を経て若干名の幹事を追加指名することができる。
- 第 14 条 学術集会会長、次期学術集会会長は支部学術集会に際して行われる役員会で役員の中より選出する。
- (役員役割)
- 第 15 条 支部長は本支部を代表し会務を総括する。また、支部長は年 1 回以上支部総会を招集し、支部総会の議長を務める。また、支部総会において本支部の活動報告及び活動方針報告を行う。
- 第 16 条 副支部長は支部長を補佐し、支部長が事故あるときはその職務を代行する。
- 第 17 条 監事は本支部の会務、会計および財産を管理する。監事は支部総会において本支部の監査報告を行う。
- 第 18 条 学術集会会長は本支部の今期支部学術集会を主催する。次期学術集会会長は次回支部学術集会を主催する。
- (役員会)
- 第 19 条 役員会は支部長、副支部長、幹事、監事、学術集会会長、次期学術集会会長を以て構成し、支部の活動を推進し、支部学術集会、研究発表会ならびに講演会などの集會を企画する。
- 第 20 条 支部学術集会当日には役員会を行う。また役員会は必要に応じて随時開催する。
- (運営費)
- 第 21 条 本支部の運営のための費用は、支部学術集会の参加費および諸団体からの寄付金、補助金をもってこれに充てる。支部学術集会の参加費は別に定める。
- 第 22 条 支部学術集会の資料代は別途請求できることとする。
- (会計年度)
- 第 23 条 本支部の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日をもって終わる。
- (決算及び監査)
- 第 24 条 本支部の事務局、会計は毎年 4 月 30 日までに決算し、監事の監査を受けなければならない。また事務局はその会計結果を支部総会で報告しなければならない。
- (会則の変更)
- 第 25 条 本支部の会則の変更は役員会で行い、支部総会に報告する。
- (その他)
- 第 26 条 この会則に定めるものの他、本支部運営に必要な事項は役員会の議を経て、支部長、事務局が別に細則として定める。
- 第 27 条 会員の中から個人情報管理担当を選任し、本支部の会員情報を管理する。
- (附則) この会則は平成 26 年 11 月 9 日より施行する。

日本医療マネジメント学会愛媛県支部 会告

会告1 支部会員お互いの呼称

部会ではお互いの呼称として「〇〇先生」は使用しない。
文書では「〇〇様」、呼ぶ時は「〇〇さん」でお願いします。
なお、「〇〇先生」を使用した場合の罰則規定はありません。
(2010/05/22)

会告2 支部学術集会発表者の入会義務

支部学術集会発表者は支部会員に限られます。
未入会の学術集会発表者の皆様、入会手続きをお願いします。
なお、学術集会参加については支部学会会員はもちろんのこと、支部会員以外の方もOK
です。学術集会には大勢の皆様のご参加をお願いします。
(2010/11/06)

会告3 第1回支部学術集会参加者の事前登録

支部学術集会参加者の事前登録はありません。
当日参加よろしくをお願いします。参加費は1000円です。
(2010/11/21)

会告4 支部学術集会参加費

第2回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会より、参加費は、日本医療マネジメント学会一般正会員は500円、非学会員は1000円（日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員は1000円）とします。
(2011/11/06)

日本医療マネジメント学会愛媛県支部の歩み

【年月日】	【開催会名】
2010/05/22 (土)	第0回日本マネジメント学会愛媛県支部役員会（設立準備会）
2010/11/21 (日)	第1回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2011/11/06 (日)	第2回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2012/11/10 (土)	第3回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2013/11/17 (日)	第4回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2014/11/09 (日)	第5回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2015/11/15 (日)	第6回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2016/11/23 (水)	第7回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2018/ 1/ 20 (土)	第8回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会
2018/11/23 (金)	第9回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会

日本医療マネジメント学会愛媛県支部役員名簿(平成30年11月23日現在)

役員名	氏名	所属病院役職
支部長	櫃本 真幸	日本医師会総合政策研究機構客員研究員 四国医療産業研究所所長
副支部長	古林 太加志	一般財団法人積善会十全総合病院名誉院長
幹事	青儀 健二郎	四国がんセンター臨床研究推進部長
幹事	石川 賀代	HITO病院院長
幹事	一井 美哉子	医療法人ゆうの森たんぽぽクリニック理事
幹事	伊藤 千鶴	労働者健康安全機構愛媛労災病院看護部長
幹事	今村 高暢	愛媛生協病院院長
幹事	岩田 猛	独立行政法人国立病院機構愛媛医療センター院長
幹事	大久保 啓二	大洲中央病院院長
幹事	岡部 健一	旭川荘南愛媛病院院長
幹事	越智 淳三	西条市立周桑病院副院長
幹事	鎌田 正晴	四国中央病院院長
幹事	木戸 保秀	松山リハビリテーション病院院長
幹事	久保 幸	愛媛大学医学部附属病院看護部長
幹事	園部 貴美	HITO病院看護部長
幹事	高石 義浩	北条病院院長
幹事(新)	高須賀 久美子	国立病院機構愛媛医療センター看護部長
幹事	武知 浩二	松山赤十字病院事務部長
幹事	谷水 正人	四国がんセンター院長
幹事	田淵 典子	社会医療法人石川記念会HITO病院副病院長
幹事	中村 寿	十全総合病院院長
幹事	松岡 君代	JCHO宇和島病院総看護師長
幹事	松田 芳郎	愛媛十全医療学院学院長
幹事	宮岡 弘明	社会福祉法人恩賜財団済生会松山病院院長
監事	田中 敬二	南松山病院事務局長
監事	藤井 元廣	医療法人天真会南高井病院
個人情報管理担当	高石 義浩	北条病院院長
第9回学術集会会長	中村 寿	十全総合病院院長
第10回学術集会会長	今村 高暢	愛媛生協病院院長

第8回 日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会 収支決算書

(平成30年 3月31日現在)

	細目	収入金額	支出金額	合計
収入	愛媛県支部会計より	530,375		
	預金利息	5		
	学術集会参加費 141名分 (500円×60名、1,000円×81名)	111,000		
	プログラム協賛広告料 17社分 (20,000円×15社、30,000円×2社)	360,000		
	学会本部より補助金	98,500		
	プログラム・抄録印刷代・郵送費		389,699	
	事務費		3,736	
支出	施設借入費用		0	
	垂れ幕などの会場設営費等		21,600	
	特別講演講師謝礼金 (@44,548円×2名)		89,096	
	特別講演講師交通費 (@5,000円×2名)		10,000	
	お茶代 (@78円×150個準備)		11,700	
	最優秀演題賞(図書カード)		30,000	
	奨励賞(図書カード)		21,000	
	愛媛県支部会計へ		523,049	
	合計	1,099,880	1,099,880	0


普通預金通帳

伊予銀行(銀行コード:0174) 新居浜支店(店番号:250)

普通預金(科目:1) 口座番号:4103249

口座名義:日本医療マネジメント学会 愛媛県支部 代表者 古林太加志

平成30年 3月31日現在の残高は以上のとおり相違ありません。

愛媛県支部副支部長(事務局代表): 古林太加志 

監査報告

平成 29 年度日本医療マネジメント学会愛媛県支部の収支、および第 8 回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会の収支について、会計帳簿、預金通帳および証拠書類により監査いたしましたところ、適正に処理されておりました。以上、監査の結果を報告いたします。

日本医療マネジメント学会愛媛県支部長 檀本 真事殿

平成 30 年 3 月 26 日

監事 田中 敬二

田中敬二



平成 30 年 4 月 4 日

監事 藤井 元廣

藤井元廣



第9回日本医療マネジメント学会愛媛県支部会学術集会予算

	細目	収入金額	支出金額	合計
収入	愛媛県支部会計より	¥523,049		
	預金利子	¥50		
	学術集会入場料	¥150,000		
	プログラム広告費 17社(2万円15社、3万円2社)	¥360,000		
	医療マネジメント学会本部より補助金	¥90,000		
支出	プログラム・抄録印刷代・郵送費		¥360,000	
	演題募集書類郵送費		¥65,000	
	施設借り入れ費用		¥130,000	
	事務費		¥27,099	
	特別講演講師旅費(3人分)		¥180,000	
	講師謝礼(3人分)		¥200,000	
	お茶、150人分		¥11,000	
	垂れ幕など 優秀賞(図書券)		¥90,000 ¥60,000	
合計		¥1,123,099	¥1,123,099	¥0

第8日回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会**優秀演題賞**

会 場 ■ 松山リハビリテーション病院
〒791-1111 愛媛県松山市高井町1211番地
☎089-975-7431
会 長 ■ 木戸 保秀 松山リハビリテーション病院院長

◎最優秀演題賞

演題 17 = 地域の介護施設における感染対策実践への支援の取り組み

演者名 = 新 紀子（あたらし のりこ）

所 属 = 社会福祉法人恩賜財団 済生会松山病院

演題内容 =

【はじめに】介護施設における感染対策は、経済的負担の増大や現場と管理者間での理解の相違等から、実践が難しい。病院に限らず、介護施設での感染対策の継続は、地域全体の感染対策の向上に繋がると考え実践した約8年間の活動を報告する。

【方法】電話相談、直接面談、ラウンド、研修

【結果】介護施設に対し研修を25回実施。電話相談の内容は集団感染、感染症に罹患した職員対応が多かった。利用者の当院受診に同行した際の待ち時間を利用して面談し、研修出向時に短時間のラウンド等を重ねて交流し、より正確な現状把握に努めた。自施設で実践可能な対策を自らが選択・検討して実践できる研修内容とし、リスクマネジメントの視点を加え、必要時に行政への報告を積極的に行うよう提案した。

【考察】『家』により近い介護施設で完璧な感染対策を日常的に行うことは難しい。しかし、各施設で実践可能な感染対策の検討・実践・改善に繋がる支援は可能であった。

【カテゴリー：3-3 感染対策】

第8回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集会**奨励賞**

◎奨励賞 7演題

演題 1 = 転倒・転落予防への取り組み～ウォーキングカンファレンスの効果～第2報

演者名 = 荒井 恵子（あらい けいこ）

所 属 = 独立法人労働者健康安全機構 愛媛労災病院

演題 7 = 当院回復期病棟における入棟時状態からの転帰先の予測 ～ 評価ツール作成を通して～

演者名 = 福田 修治（ふくだ しゅうじ）

所 属 = 社会医療法人北斗会 大洲中央病院

演題 9 = データウェアハウス（DHW）を活用して指導料算定対象者を拾い上げる取り組み

演者名 = 上野 裕介（うえの ゆうすけ）

所 属 = 社会医療法人石川記念会 HITO 病院

演題 16 = 看護負担度の可視化を看護・介護の動機づけに活かす

演者名 = 倉橋 千秋（くらはし ちあき）

所 属 = 松山リハビリテーション病院 看護部長室

演題 24 = 病院とケアマネとのよりよい連携を目指して

演者名 = 松本 真理（まつもと まり）

所 属 = 医療法人 沖縄徳洲会 ケアプランセンターパール

演題 28 = 大洲医療圏域の救急車搬入実績からみる当院の現状と課題

演者名 = 東 研志（ひがし けんじ）

所 属 = 社会医療法人北斗会 大洲中央病院 診療情報管理室

演題 35 = こうして続いた『みんなの体操』～4ヵ月間の実態調査と分析

演者名 = 宮武 征司（みやたけ せいじ）

所 属 = 愛媛労災特別介護施設（ケアプラザ新居浜）



特定非営利活動法人

日本医療マネジメント学会の入会案内と入会手続き

Japan Society for Health Care Management

<http://jhm.umin.jp/>

理事長挨拶



日本医療マネジメント学会が発足して21年目に入りました。学会は医療の質の向上を求めてクリティカルパスをはじめ医療連携、医療安全等々、医療の現場における各種の課題の研究、提案を行い、成果を上げて参りました。

医療界は医学の進歩と急速な高齢人口の増加を背景に、さらに転換を求められてきています。医療の現場に携わる私共はしっかりと現実をみつめ、将来を考えて取り組んでいくことが望まれます。

主な学会活動としては全国学術総会の開催があります。第20回日本医療マネジメント学会学術総会（会長 KKR 札幌医療センター病院長 磯部 宏 先生）は2018年6月8日、9日の2日間にわたりニトリ文化ホールほかで開催されました。日本全国から医師、看護師、薬剤師、医療スタッフ全般、事務、管理者等多職種の多数参加の下にクリティカルパス、医療連携、医療安全、医療の質向上等広範な内容の発表と熱心な討論が行われました。

第21回日本医療マネジメント学会学術総会（会長 独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院院長 網川 常郎 先生）は2019年7月19日、20日の2日間にわたって名古屋国際会議場で開催されます。只今、鋭意プログラム作成が進んでいるところです。新新かつ充実したプログラムが期待されます。

また、医療連携分科会、医療安全分科会をはじめとした各種分科会、医療福祉連携や医師事務作業補助に携わる人材育成のための講習会の開催、医療福祉連携士の認定、学会雑誌の年5冊定期的発行、学会編集による「イザイ（医療材料）」等雑誌、「医療安全メールマガジン」、「医療安全BOOKS」シリーズ、「クリティカルパスの新たな展開」等書籍の監修等活発な学会活動が展開されています。各都道府県の支部活動も活発で、より身近な参加しやすい学会です。支部をまたいだ九州・山口連合大会、東北連合会の活動も本学会の特色です。

本学会の趣旨と活動にご賛同頂き、よりよい医療マネジメントの開発研究に携わる多くの方の参加をお待ちしております。

理事長 宮崎 久義

学会組織

- 理事会 会務を執行。
- 評議員会 学会の重要事項を審議。
- 総会 学会の最高議決機関で、学術総会時に開催。
- 委員会
 - 広報委員会：学会活動を学会会員及び学会非会員へ提供。学会ホームページの運用。
 - 企画委員会：学会主催のセミナーなどの企画・開催、学会発行の書籍の企画・出版。
 - 学芸委員会：学会雑誌の企画、発行。
 - 保険・医療制度対策委員会：学会活動で明らかになった諸問題に対し、関連機関へ働きかけ。
 - 医療の質検討委員会：患者中心の医療の質の評価手法、医療の質の向上・維持手法について検討。
 - クリティカルパス情報交換委員会：クリティカルパスの開発普及及び(一財)医療情報システム開発センターと共同でクリティカルパス・ライブラリー (<http://epath.medis.jp>) を運営。
- 電子化委員会：電子診療録に関する研究。
- 顔面計算委員会：顔面計算に関する情報交換。
- 医療安全委員会：医療安全全般に係る情報の収集、分析、発信。
- 地域医療委員会：地域の医療の任り方、地域医療支援病院に関する検討。
- 個人情報保護委員会
- 医療器材検討委員会
- 医療連携分科会、医療安全分科会、医療福祉連携講習会、医師事務作業補助者指導者養成講習会などの開催。
- 支部 各都道府県に支部を設置し、支部学術集会、研究会などの企画、運営。

入会申し込み

- 一般正会員 学会の趣旨に賛同される個人
 - 年会費 医師・歯科医師 10,000円
 - 医療スタッフ・福祉・一般 7,000円
- 主な特典 日本医療マネジメント学会雑誌（年間5冊出版）、News Letterの提供
- 賛助会員 学会の趣旨に賛同される企業など
 - 年会費 100,000円
 - 主な特典
 - ・一般正会員1名と同等の特典
 - ・学会主催展示会で優先的に展示場所割当
- 会計年度 本学会の会計年度は4月～翌年3月です。
- 入会申し込み 所定の入会申込用紙に必要事項をご記入の上、郵送またはFAXにてお申し込みください。本学会ホームページからも入会手続は可能ですのでご利用下さい。

特定非営利活動法人
日本医療マネジメント学会

〒860-0806

熊本市中央区花畑町1番1号
三井生命熊本ビル 3階

TEL:096(359)9099

FAX:096(359)1606

E-mail:jhm@space.ocn.ne.jp

<http://jhm.umin.jp/>

© 2018.9

設立の経緯

日本医療マネジメント学会は、1998年6月に発足したクリティカルパス研究会を基盤にして設立されました。クリティカルパス研究会は、クリティカルパスを中心にした医療マネジメントのノウハウやツールを研究・開発する目的で、有志の医療関係者が集まって活動していた研究会です。その活動は、1998年6月に第1回定例会を開催、1999年11月までに講演会等を含め14回開催されました。中でも1999年6月に開催した第1回クリティカルパス全国研究交流フォーラム（つくば市）では、約1,800名の参加者があり、医療マネジメントへの関心の高さを認識しました。これを契機に、クリティカルパスをはじめ医療現場の課題を取り上げ、研究活動の更なる拡大を目的に学会に移行し、今日に至ります。

沿革

- | | | | |
|--|--|---------------------|--|
| 1998年6月 | 第1回クリティカルパス研究会
「医療経営とクリティカルパスの活用」 | 2003年1月 | 第1回電子カルテセミナー
「電子カルテ導入を目指して」 |
| 9月 | 第2回クリティカルパス研究会
「医療の質とクリティカルパスの活用」 | 2月 | 第3回クリティカルパス実践セミナー熊本、
第4回クリティカルパス実践セミナー岡山、
書籍「クリティカルパス最近の進歩2003」発行 |
| 1999年2月 | 第3回クリティカルパス研究会
「ディズニーズマネジメントとEDMとクリティカルパス」 | 3月 | 第5回クリティカルパス実践セミナー横浜、
第6回クリティカルパス実践セミナー仙台 |
| 第4回クリティカルパス研究会
「クリティカルパスと日本版DRG/PPSの実践」 | 4月 | 第7回クリティカルパス実践セミナー金沢 | |
| 4月 | 第5回クリティカルパス研究会
「米国内院視察報告と医療標準化のための薬剤投与
パターンの標準化の試み」 | 5月 | 第8回クリティカルパス実践セミナー大阪、
第9回クリティカルパス実践セミナー沖縄 |
| 6月 | 第1回クリティカルパス全国研究交流フォーラム
(第1回学術総会)
【6月5日 つくば国際会議場
会長 小関 達 (筑波記念病院院長)】 | 6月 | 第5回医療マネジメント学会学術総会
「医療改革としての医療マネジメント」
【6月13日～14日 仙台国際センター
会長 山内 英生 (国立仙台病院名誉院長)】
第8回医療連携セミナー
「地域医療支援病院の現状と課題」
書籍「クリティカルパス実践セミナーテキスト」発行 |
| 7月 | 第6回、第7回合同クリティカルパス研究会
「クリティカルパス第一世代から第二世代へ」 | 7月 | 第10回クリティカルパス実践セミナー熊本、
第11回クリティカルパス実践セミナー東京 |
| 9月 | 第8回クリティカルパス研究会
「クリティカルパスの適用・非適用の条件を探る」 | 9月 | 第9回医療連携セミナー
「地域医療支援病院と外来分館—現状と課題—」、
第12回クリティカルパス実践セミナー福岡 |
| 9月18日 | 医療マネジメント学会設立 | 10月 | 第13回クリティカルパス実践セミナー延喜、
第1回「DPC対応型クリティカルパス」特別セミナー
「医療安全の新たな展開」 |
| 11月 | 第9回クリティカルパス研究会
「高齢患者用クリティカルパスの作成と活用」 | 11月 | 第4回リスクマネジメント・セミナー
「患者安全の新たな展開」 |
| 2000年3月～4月 | 学会設立記念セミナー全国7都市で開催 | 2004年1月 | 第2回電子カルテセミナー
「電子カルテシステムの導入のノウハウ」、
書籍「地域医療支援病院と医療連携のありかた」発行 |
| 5月 | 医療マネジメント学会ホームページ開設 | 2月 | 第14回クリティカルパス実践セミナー熊本、
書籍「クリティカルパス最近の進歩2003」韓国版発行 |
| 6月 | 第2回医療マネジメント学会学術総会
「さらなる医療の質の向上をめざして
—第2世代のクリティカルパス—」
【6月9日～10日 熊本県立劇場
会長 宮崎 久義 (国立熊本病院院長)】 | 4月 | 第15回クリティカルパス実践セミナー熊本 |
| 7月 | 第1回医療連携セミナー「地域医療連携の実践」 | 6月 | 第6回医療マネジメント学会学術総会
「患者中心の医療を考える
—クリティカルパスのより良い、より広い活用方法を求めて—」
【6月18日～19日 サンポートホール高松
香川県県民ホール
会長 原田 英雄 (香川県労務病院院長)】
書籍「クリティカルパス最近の進歩2004」発行、
書籍「電子カルテシステムの普及に向けて」発行 |
| 12月 | 第2回医療連携セミナー「地域医療連携の実践 (2)」 | 7月 | 第2回「DPC対応型クリティカルパス」特別セミナー、
雑誌「医療安全」創刊 |
| 2001年5月 | 第3回医療連携セミナー
「大学附属病院、地域医療支援病院の地域との医療連携」 | 8月 | 第16回クリティカルパス実践セミナー京都 |
| 6月 | 第3回医療マネジメント学会学術総会
「21世紀の医療サービスを考える」
【6月8日～9日 パシフィコ横浜
会長 小林 寛伊 (NTT東日本関東病院院長)】 | 9月 | 第10回医療連携セミナー
「地域医療支援病院と産科」 |
| 9月 | 第4回医療連携セミナー
「急性期病院の外来と医療連携」 | 10月 | 第17回クリティカルパス実践セミナー熊本、
書籍「研修医のためのクリティカルパス活用ガイド」発行 |
| 10月 | 第1回リスクマネジメント・セミナー
「患者の安全確保をめざして」 | 11月 | 第5回リスクマネジメント・セミナー、
「リスクマネジメントの新たな展開」 |
| 12月 | 第5回医療連携セミナー
「急性期病院の外来と医療連携 (II)」、
書籍「新たな医療連携の実践—その現状と方策—」発行 | 2005年1月 | 第3回電子カルテセミナー
「DPC対応電子カルテシステム」 |
| 2002年1月 | クリティカルパスセミナー
「クリティカルパスの導入と展開」(京都) | 2月 | 第18回クリティカルパス実践セミナー熊本 |
| 3月 | 第6回医療連携セミナー「急性期病院と外来分館」 | 4月 | 第19回クリティカルパス実践セミナー熊本 |
| 5月 | 第2回リスクマネジメント・セミナー
「組織で取り組む医療安全」 | 6月 | 第7回医療マネジメント学会学術総会
「安全かつ最良最速な医療の提供を目指して」
【6月24日～25日 福岡国際会議場 福岡サンパレス
会長 堀 元則 (国立病院機構九州医療センター院長)】
雑誌「連携医療」創刊 |
| 6月 | 第4回医療マネジメント学会学術総会
「効率的で安心できる医療を実現するために」
【6月28日～29日 京都府会館・京都市勧業館
会長 岡 隆宏 (京都第一赤十字病院院長)】 | 7月 | 第20回クリティカルパス実践セミナー名古屋 |
| 7月 | 書籍「急性期病院のあり方と外来分館」発行 | | |
| 9月 | 第7回医療連携セミナー「疾病別連携」 | | |
| 10月 | 第1回クリティカルパス実践セミナー熊本、
第2回クリティカルパス実践セミナー札幌 | | |
| 11月 | 第3回リスクマネジメント・セミナー
「リスクマネージャーの役割と分析方法論」 | | |

8月	特定非営利活動法人化	2009年度第1回医療連携分科会	
9月	第11回医療連携セミナー 「疾病別連携と連携IT活用」 書籍「臨床指標の実践」発行	2009年度第2回IT活用IT実践セミナーin滋賀	
10月	第3回「DPCとIT活用」 特別対談「DPCと病院IT」	2010年度第1回医師事務作業補助者講習会 (第1、2クール)、 書籍「がん地域連携クリティカルパス ーがん医療連携とコーディネート機能ー」発行	
11月	第6回リスクマネジメント・セミナー 「医療安全の課題とブレークスルー」	6月	第12回日本医療マネジメント学会学術総会 「チームでめざすこれからの医療-良質で安全な 医療サービスの提供のために-」 【6月11日～12日 札幌コンベンションセンターほか 会長 森 温信(札幌社会保険総合病院院長)】
2006年1月	第4回電子カルテ分科会 「医療情報システムの標準化と情報保護」	7月	2010年度医療福祉連携講習会(第1クール)
2月	第21回IT活用IT実践対談in熊本	8月	2010年度医療福祉連携講習会(第2クール)
5月	地域連携IT活用IT分科会	9月	2010年度医療福祉連携講習会(第3、4クール)
6月	第8回日本医療マネジメント学会学術総会 「医療の安全と質-医療・介護体制の改革をめくって-」 【6月16日～17日 パシフィコ横浜 会長 高橋 俊敏(国立病院機構横浜医療センター院長)】	10月	2010年度第1回IT活用IT実践セミナーin仙台 2010年度医療福祉連携講習会(第5クール)、 2010年度第1回医療安全分科会 「医療安全のための根本原因分析とチーム医療のスキル」
9月	雑誌「イザイ」創刊	11月	2010年度第2回医師事務作業補助者講習会 (第1、2クール)、 2010年度第1回医療連携分科会
10月	第22回IT活用IT実践対談in熊本	2011年1月	2010年度第2回IT活用IT実践セミナーin岡山
11月	医療安全分科会 「カルテレビューと安全ラウンドの実践」	4月	医療福祉連携士第1期生認定
2007年2月	平成18年度 第2回IT活用IT実践対談in熊本	5月	2011年度第1回医師事務作業補助者講習会 (第1、2クール)
5月	平成19年度 第1回地域連携IT活用IT分科会 「地域連携クリティカルパスの効果的活用を目指して」	6月	第13回日本医療マネジメント学会学術総会 「地域で守る患者中心の医療 ーチーム医療と医療連携」 【6月24日～25日 京都市勧業館みやこめっせほか 会長 香川 豊造(市立福知山市市民病院院長)】
6月	日本学会協議力学術研究団体指定	7月	書籍「医療安全のリーダーシップ」発行、 2011年度医療福祉連携講習会(第1クール)
7月	第9回日本医療マネジメント学会学術総会 「医療のより良い提供体制とより良い利用方法を求めて ー限りある医療資源を有効利用するためにー」 【7月13日～14日 グランドプリンスホテル新高輪 国府館パミール 会長 菊合 悠之(NTT東日本関東病院院長)】	8月	2011年度医療福祉連携講習会(第2、3クール)
9月	平成19年度 第1回IT活用IT実践セミナーin熊本	9月	2011年度医療福祉連携講習会(第4クール)
11月	平成19年度 第1回医療安全分科会 「チームで取り組む医療安全」	10月	2011年度第2回医師事務作業補助者講習会(第1クール)、 2011年度第1回医療安全分科会
2008年2月	平成19年度 第2回IT活用IT実践セミナーin熊本、 平成19年度 第2回地域連携IT活用IT分科会 「脳卒中、がん、糖尿病、急性心臓病における現状と課題」	12月	2011年度医療福祉連携講習会(第5クール)、 2011年度第2回医師事務作業補助者講習会(第2クール)
5月	書籍「5日間で学ぶ 医療安全超入門」発行	2012年2月	2011年度第1回IT活用IT実践セミナーin大阪、 2011年度第1回医療連携分科会
6月	第10回日本医療マネジメント学会学術総会 「安全・安心・信頼の医療 ー未来につづく地域医療連携ー」 【6月20日～21日 名古屋国際会議場 会長 稲垣 重夫(トヨタ記念病院院長)】	6月	2012年度第1回医師事務作業補助者講習会(第1クール)
7月	平成20年度第1回IT活用IT実践セミナーin神戸	7月	2012年度第1回医師事務作業補助者講習会(第2クール)、 2012年度医療福祉連携講習会(第1クール)
9月	平成20年度第2回IT活用IT実践セミナーin熊本、 平成20年度第1回地域連携IT活用IT分科会 「地域医療連携と脳卒中における 地域連携IT活用の現状と課題」	8月	2012年度医療福祉連携講習会(第2クール)、 2012年度医療福祉連携講習会(第3クール)
10月	平成20年度第1回医療連携分科会 「医療計画を理解する ーこれからの地域医療連携の展望と課題」	9月	2012年度医療福祉連携講習会(第4クール)
11月	平成20年度第1回医療安全分科会 「医療安全はどこへ向かうのか ーいま注目すべき症例検討会と医療IT(イノヴァー)」	10月	第14回日本医療マネジメント学会学術総会 「地域医療の発展と絆-チーム医療と地域連携をさらに進める ヒューマンネットワーク作りを目指して-」 【10月12日～13日 アルカスSASEBOほか 会長 江口 勝美 (佐世保市立総合病院 病院事業管理者兼病院院長)】
2009年2月	2008年度第3回IT活用IT実践セミナーin熊本、 2008年度第2回地域連携IT活用IT分科会 「がんの地域連携IT活用の実践と課題」	11月	2012年度医療安全分科会、 2012年度第2回医師事務作業補助者講習会(第2クール)
6月	第11回日本医療マネジメント学会学術総会 「新しい医療連携第3への展開 ー医療・保健・福祉の地域活性化をめざしてー」 【6月12日～13日 長崎ブリックホールほか 会長 米倉 正大 (国立病院機構長崎医療センター院長)】	12月	2012年度医療福祉連携講習会(第5クール)
8月	2009年度第1回IT活用IT実践セミナーin札幌	2013年2月	2012年度IT活用IT実践セミナーin下関、 2012年度医療連携分科会
11月	2009年度第1回医療安全分科会 「医療安全の基礎、信頼のコミュニケーションのすべて」、 2009年度第1回電子化分科会 「地域医療ネットワークのIT化 ー地域医療連携の現状とこれからのIT化の展望を問う!」、	6月	第15回日本医療マネジメント学会学術総会 「とりもどそう あたたかい故郷を ー地域との協働で拓く医療の未来ー」 【6月14日～15日 マリオス(盛岡市文化ホール)ほか 会長 望月 康(岩手県立中央病院院長)】
		7月	書籍「ねころんで読める WHO患者安全カリキュラムガイド」発行、 2013年度第1回医師事務作業補助者講習会(第2クール)、

	2013年度医療福祉連携講習会（第1クール）	10月	2016年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）、2016年度医療福祉連携講習会（第5クール）
	8月 2013年度医療福祉連携講習会（第2クール）、	11月	2016年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）、2016年度医療安全分科会
	9月 2013年度医療福祉連携講習会（第3クール）、	2017年2月	2016年度医療連携分科会
	2013年度医療福祉連携講習会（第4クール）	5月	2017年度医師事務作業補助者講習会（第1クール）
	10月 2013年度第1回リフレミア実践セミナーin青森	6月	2017年度医師事務作業補助者講習会（第2クール）
	11月 2013年度医療安全分科会、	7月	2017年度医療福祉連携講習会（第1クール）、
	2013年度第2回医師事務作業補助者講習会（第1クール）		第18回日本医療マネジメント学会学術総会
	2013年度第2回医師事務作業補助者講習会（第2クール）、		「医療を守るために大切な医療 ～患者・職員の間を結びつけて～」
	2013年度医療福祉連携講習会（第5クール）		【7月7日～8日 仙台国際センター
2014年2月	2013年度医療連携分科会		会長 田所 直一
5月	2014年度第1回リフレミア実践セミナーin鹿児島、		（独立行政法人国立病院機構山形医療センター名誉院長）
	2014年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール）		書籍「ガマンしない、させない！
6月	第16回日本医療マネジメント学会学術総会		院内暴力対策「これだけは」発行
	「楽しく働くために 一医療の進むべき姿を求めて」	8月	2017年度医療福祉連携講習会（第2クール）、
	【6月13日～14日 陸山コンベンションセンターほか	10月	2017年度医療福祉連携講習会（第3クール）
	会長 青山 典男		2017年度医療福祉連携講習会（第4クール）、
	（国立病院機構岡山医療センター名誉院長）】		2017年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）
	2014年度医療福祉連携講習会（第1クール）	11月	2017年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）
7月	書籍「医療を管理する 安全を測る」発行、	12月	2017年度医療福祉連携講習会（第5クール）
	2014年度第1回医師事務作業補助者講習会（第2クール）、	2018年1月	2017年度医療安全分科会
	2014年度医療福祉連携講習会（第2クール）	2月	2017年度医療連携分科会
8月	2014年度医療福祉連携講習会（第3クール）	6月	第20回日本医療マネジメント学会学術総会
9月	2014年度医療福祉連携講習会（第4クール）		「信頼 -地域に根ざした強いチーム力を誇ろう-」
10月	2014年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）		【6月8日～9日 ニトリ文化ホールほか
11月	2014年度医療安全分科会、		会長 藤部 定（KKR札幌医療センター病院長）】
	2014年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）、	7月	2018年度医療福祉連携講習会（第1クール）
	2014年度医療福祉連携講習会（第5クール）		書籍「患者・家族の意思決定、現場の判断を支える
2015年2月	2014年度医療連携分科会		“やさしい”臨床倫理フレームワーク」発行
5月	2015年度医療福祉連携講習会（第1クール）、	8月	2018年度医療福祉連携講習会（第2クール）
	2015年度第1回医師事務作業補助者講習会（第1クール）	9月	2018年度医療福祉連携講習会（第3クール）、
6月	第17回日本医療マネジメント学会学術総会		2018年度医療福祉連携講習会（第4クール）
	「医療における不確実性 ～変わらないもの、変わるもの～」		
	【6月12日～13日 グランキューブ大阪（大阪国際会議場）		
	会長 山根 哲郎		
	（パナソニック健康保険組合松下記急病院院長）】		
	2015年度第1回医師事務作業補助者講習会（第2クール）		
7月	書籍「ストレス要因別		
	「防げたはず」のエラーが起こる瞬間」発行、		
	2015年度医療福祉連携講習会（第2クール）		
8月	2015年度医療福祉連携講習会（第3クール）、		
	2015年度医療福祉連携講習会（第4クール）		
10月	2015年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第1クール）		
11月	2015年度医療福祉連携講習会（第5クール）、		
	2015年度医師事務作業補助者指導者養成講習会（第2クール）、		
	2015年度医療安全分科会		
2016年2月	2015年度医療連携分科会、		
	2015年度リフレミア実践セミナーin仙台		
4月	第18回日本医療マネジメント学会学術総会		
	「明るい病院改革		
	～改善とイノベーションで切り拓く明日の医療医療～」		
	【4月22日～23日 福岡国際会議場、福岡サンパレス		
	会長 田中 二郎（飯塚病院名誉院長）】		
6月	2016年度医療福祉連携講習会（第1クール）、		
	2016年度医療福祉連携講習会（第2クール）、		
	2016年度医師事務作業補助者講習会（第1クール）		
7月	2016年度医療福祉連携講習会（第3クール）、		
	2016年度医師事務作業補助者講習会（第2クール）		
8月	2016年度医療福祉連携講習会（第4クール）		
9月	書籍「そのときどうする！？		
	予期せぬ急変・死亡時の現場対応マニュアル」発行		

学会の活動

- 学術総会の開催
- 日本医療マネジメント学会雑誌の発行（5冊/年）
- News Letterの発行
- 書籍発行
- 医療連携分科会、医療安全分科会、医療福祉連携講習会、
- 医師事務作業補助者指導者養成講習会などの開催
- 医療従事者に対する研修講師への派遣かけ
- 委員会の開催 ●支部学術集会の開催

日本医療マネジメント学会への入会のご案内（郵送または FAX による申込方法）

※ホームページからの入会方法は <http://jhm.umin.jp/> をご覧ください。

入会申込（一般正会員及び賛助会員）：入会されますと退会の申し出があるまで自動継続となります。

◎一般正会員 学会の趣旨に賛同される個人

年会費 医師・歯科医師 10,000円
医療スタッフ・福祉・一般 7,000円

主な特典

・日本医療マネジメント学会雑誌（年間 5 冊出版）、
News Letter 提供

手続き

一般正会員のお申込は、下記の一般正会員入会申込書を記入し、郵送または FAX にて学会事務局までお送り下さい。

入会申込書受理後、学会事務局より年会費の払込取扱票をお届けしますので、郵便局またはコンビニエンスストアでお振り込み下さい。年会費のご入金確認後、学会会員番号通知をお届けします。学会会員番号通知がお手元に届きましたら、手続きが完了となります。

なお、一般正会員の入会申込は学会ホームページからも可能です。

※ご入金を頂いてから、学会会員番号通知がお手元に届くまで 10 日ほどかかります。

◎賛助会員 学会の趣旨に賛同される企業など

年会費 100,000円

主な特典

・一般正会員 1 名と同等の特典
・学会主催展示会で優先的に展示場所割当

手続き

賛助会員のお申込は、別途所定の申込用紙がございますので学会事務局までご連絡下さい。

※会計年度は 4 月～翌年 3 月です。年度途中の入会であっても年会費金額を納入して頂きます。

※入金された日が入会日となります。

※一度入金された年会費は返金できませんので、ご注意ください。

※過去に本学会会員となられ、年会費の滞納を理由に退会された方が、再入会を希望される場合は、滞納分年会費をお支払い頂く必要がございます。入会申込書受理後、学会事務局より滞納分と新規入会分を合わせた年会費の払込取扱票をお届けいたします。

※退会希望の場合、退会希望年度の末日（3 月 31 日必着）までに退会手続きをして下さい。

----- きりとり線 -----

【日本医療マネジメント学会一般正会員入会申込書】（郵送または FAX でのお申込）

日本医療マネジメント学会事務局 宛 〒860-0806 熊本市中央区花畑町 1-1 三井生命熊本ビル 3 階
FAX 096-359-1606 TEL 096-359-9099 E-mail jhm@space.ocn.ne.jp

入会申込日	年 月 日		
会員種別	<input type="checkbox"/> 医師・歯科医師 <input type="checkbox"/> 医療スタッフ・福祉・一般 (いずれかに✓)		
ふりがな	性別 (いずれかに✓)		
氏名	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女		
勤務機関	名称		
	所属・役職		
	職種 (〒7桁420)	1.医師・歯科医師 2.看護師・保健師・助産師 3.薬剤師 4.臨床検査技師 5.診療放射線技師 6.理学療法士 7.作業療法士 8.言語聴覚士 9.臨床工学技士 10.管理栄養士 11.社会福祉士 12.精神保健福祉士 13.診療情報管理士 14.事務 15.企業 16.その他 ()	
	所在地	〒	
	電話番号	FAX 番号	
	E-mail		
自宅	住所	〒	
	電話番号	FAX 番号	
連絡先	<input type="checkbox"/> 勤務先 <input type="checkbox"/> 自宅 (いずれかに✓) ※学会雑誌の送付先となります。		
事務局 使用欄			受付印



第21回

日本医療マネジメント学会学術総会



私たちの 働き方 改革



良質で成熟した
日本の医療を
めざして

会長

絹川 常郎

独立行政法人

地域医療機能推進機構 中京病院 院長

会場

名古屋国際会議場

2019

7.19 FRI ▶ **20** SAT

[学術総会事務局]

〒457-8510 名古屋市南区三栄一丁目1番10号
独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院内

[学術総会運営事務局]

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命館が関ビル14階 日本コンベンションサービス株式会社
TEL:03-3508-1214 / FAX:03-3508-1302 / E-mail:jhm2019@convention.co.jp

協賛企業（順不同）

EAファーマ
MSD株式会社
アステラス製薬株式会社
エーザイ株式会社
株式会社三和化学研究所
株式会社ツムラ
協和発酵キリン株式会社
第一三共株式会社
大日本住友製薬株式会社
武田薬品工業株式会社
田辺三菱製薬株式会社
中外製薬株式会社
日本イーライリリー株式会社
小野薬品工業株式会社
杏林薬品株式会社
興和創薬株式会社
沢井製薬株式会社
ノバルティスファーマ株式会社
久光製薬株式会社
マイランEPD株式会社

Japan Society for Health Care Management

URL <http://userweb.shikoku.ne.jp/takobaya/jhmes/index.html>